

【第 1 号議案】

四万十川条例に係る令和 9 年度
目標指標について

【目次】

○四万十川条例に係る令和 9 年度目標指標について	1
○令和 9 年度目標指標【5 2 項目】(案)	2
○令和 9 年度目標指標 検討資料	
(実績値及び見直し事務局案一覧)	3
○令和 9 年度目標指標 検討資料	
(項目別詳細版)	9

1 目標指標とは（四万十川条例第36条）

目標指標：条例の目的の達成状況を把握し、進捗管理を行うための指標（現状数値、目標数値、目標年度及び調査方法）

四万十川の将来像

- ①水量が豊かで、かつ、清流が保たれていること
- ②天然の水生動植物が豊富に生息し、生育していること
- ③河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されていること
- ④人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されていること
- ⑤季節ごとの優れた景観を有していること
- ⑥住民の安全かつ快適な生活が保たれていること
- ⑦川がこどもの遊びの場として活用されていること
- ⑧川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること
- ⑨流域内又は流域外との地域間交流が活発に行われているとともに、その活動が、住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと
- ⑩情報通信網が整備され、その活用が図られていること

○目標指標年度

（今回設定するもの）

平成19年度 ▶ 平成24年度 ▶ 平成29年度 ▶ 令和4年度 ▶ **令和9年度目標指標** ※5年に1回見直し

【参考：令和4年度】

目標指標54項目

- 生態系及び景観の保全 18項目
- 生活・文化・歴史の豊かさの確保 36項目

2 令和9年度目標指標の検討・見直しについて

○検討にあたっての考慮事項

「四万十川条例の将来像に沿った指標であること」「継続して数値の収集ができること（事業廃止や今後実施の見込みがないこと）」
「公開可能なデータであること」「他の計画等と整合が取れること」「内容によっては目標値を設定しないこと（継続的な数値把握が目標）」

○令和9年度目標指標（案）の概要

目標指標
54項目 → 52項目

- 生態系及び景観の保全 18項目
- 生活・文化・歴史の豊かさの確保 36項目 → 34項目

削除する指標（案） … 役割を終えたと思われる項目や継続的なデータ収集が困難であるものなどについて削除

「携帯電話の普及率」（社会で当たり前になってきているため）、「四万十ブランド認証の認証件数」（一定役割を終えて事業廃止）、「レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組」（レジ袋有料化が義務化されたため）

その他の変更（案） … 項目名や項目の変更、目標値の変更を実施

【項目名等の変更】

「耕作放棄地の面積→荒廃農地の面積」、「協働の川づくり協定件数→（公財）四万十川財団への寄附件数」、「地元中高卒者の地元就職率→地元高卒者の地元就職率」、「環境活動リーダー・インタープリター等の人数→四万十 リバーマスター等の人数」

【目標値の変更】

「生活排水の浄化率 76.88% → 83%以上」、「水切り袋の普及率 86.1%以上 → 93%以上」、「有害鳥獣の捕獲数（ニホンジカ）目標なし → 年間7,000頭以上」、「インターネットの普及率 45%以上 → 78.8%以上」、「自然体験型修学旅行の実施校数 30校以上 → 25校以上」、「シンボリック伝統家屋等 16件 → 17件」、「ごみの排出状況（ごみの量）843g以下 → 888g以下、（リサイクル率）45.9%以上 → 30%以上」

その他、新たな指標について … ★令和6年度に設立した専門部会での議論を参考とした新たな指標の案など

○検討及び見直しのスケジュール（指標公表までの流れ）

令和6年5月	6月～9月	11月	12月～2月
・委員会への報告	・部会開催、案修正検討等	・委員会で審議	・最終調整、完成、周知・公表

令和9年度目標指標【52項目】（案）

※注 「流域市町」とは、四万十川条例第2条第4項で定める四万十市、中土佐町、橋原町、津野町、四万十町をいす。… 項目や目標値を変更したもの ★ … 目標値を設定している項目

住民が主体となる項目【24項目】		行政が主体となる項目【28項目】	
1 生態系及び景観の保全：本来、自然が持つ機能を十分に生かしながら、多様な生態系や景観を重視した四万十川の保全を図る。【18項目】			
(1) 四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること。【10項目】			
①清流基準の達成度（清流度、水生生物）★ ②生活排水の浄化率（污水处理人口普及率）★ ③四万十川一斉清掃の参加率★ ④水切り袋の普及率★変		①清流基準の達成度（窒素、りん）★ ②生活排水の浄化率（污水处理人口普及率）★変 ③環境に配慮した砂防・治山ダム数 ④四万十川（具同・大正）における流況 ⑤四万十川における河床高の状況 ⑥四万十川における魚類・底生動物の確認種数	
(2) 森林、農地及び草地が適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること。【8項目】			
①森林認証の認証状況（認証団体数、認証面積） ②環境保全型農業の実施状況（化学肥料等に頼らない事業者数、農薬低減等に取り組んでいる栽培面積） ③リサイクル肥料の年間生産状況 ④荒廃農地の面積変		①除・間伐の面積 ②混交林の面積 ③環境先進企業との官民協働の環境保全（協働の森づくり事業の協定締結件数、（公財）四万十川財団への寄附件数）変 ④有害鳥獣の捕獲数変	
2 生活・文化・歴史の豊かさの確保：流域の人々の生活・文化・歴史の豊かさの確保と流域を訪れる人々が感じる魅力の向上に努める。【34項目】			
(1) 住民の安全かつ快適な生活が保たれていること。【5項目】			
①情報通信網の普及率（インターネット）★変 ②生活満足度		①ネットワーク道路の安全・快適度（道路改良率、道路情報板等の整備状況、交通事故の発生件数） ②地元高卒者の地元就職率変 ③流域市町の子ども的人数	
(2) 四万十川がこどもの遊び場として活用されていること。【7項目】			
①川で遊んだ子どもの割合 ②カヌー、SUP等を体験したことのある子どもの割合 ③川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合		①こどもが自由に魚を釣れる場所数 ②水生生物調査の実施校の割合 ③水質調査の実施校の割合 ④自然体験型修学旅行の実施校数★変	
(3) 四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること。【4項目】			
①農家民宿等の軒数 ②地産の状況（地元農産物の販売額、入漁券（日釣券）の販売額）		①漁獲量（アユ、ウナギ、アオノリ、テナガエビ） ②公共事業における木材の利用状況（県有施設の木造化及び内装の木質化率、公共工事での木材利用量）★	
(4) 地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと。【5項目】			
①環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数 ②グリーンツーリズムの交流人口		①四万十リバーマスター等の人数変 ②交流人口の状況（イベント等の入込客数、観光施設等の利用者数、道の駅等の利用者数）★ ③流域市町の人口（流域市町の人口、県外から流域市町への移住者数）	
(5) 文化・歴史を保全活用していること。【9項目】			
①伝統祭事の実施状況★ ②伝統漁法の実施状況（許可件数、舟大工の人数、川漁師の人数） ③博物館・資料館の入場者数 ④シンボルの伝統家屋等★変		①適正に管理保存された沈下橋数★ ②伝統漁具の保存★ ③有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数 ④重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数 ⑤文化財等の活用状況	
(6) 環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること。【4項目】			
①エコカー（低公害車）の保有台数 ②ゴミの排出状況（住民1人当たりのゴミの量、ゴミのリサイクル率）★変 ③生ゴミのたい肥化への取組状況		①新エネルギーに関する自家発電設備の設置率	

令和9年度目標指標 検討資料（実績値及び見直し事務局案一覧）

※注 [住民] … 住民が主体となる項目 [行政] … 行政が主体となる項目  … 項目や目標値などを変更するもの  … 廃止する項目

令和4年度項目		令和4年度項目内容	令和4年度調査方法	令和4年度目標値	令和4年度の実績値など	達成状況	見直しの有無	見直し箇所	見直し内容	備考
1 生態系及び景観の保全 （1）四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること										
【1】	清流基準（清流度・水生生物）の達成度 ①清流度 [住民]	調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（清流度）の達成度。	高知県衛生環境研究所が調査実施	各地点 1.0m以上 流域全体平均 7.1m	流域全体平均 6.0m （差 −1.0m）	×	無	—	現行どおり	・将来的には、調査地点を絞り込むことなど、調査方法の見直し検討が必要（持続可能性の考慮）
	②水生生物 [住民]	調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（水生生物）の達成度。	高知県衛生環境研究所が調査実施	流域全体平均 1.3ランク以下	流域全体平均 1.2ランク	○	無	—	現行どおり	・将来的には、調査地点を絞り込むことなど、調査方法の見直し検討が必要（持続可能性の考慮）
【2】	清流基準（窒素・りん）の達成度 ①窒素 [行政]	調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（窒素）の達成度。	高知県衛生環境研究所が調査実施	流域全体平均 0.35mg/L以下	流域全体平均 0.30mg/L	○	無	—	現行どおり	・将来的には、調査地点を絞り込むことなど、調査方法の見直し検討が必要（持続可能性の考慮）
	②りん [行政]	調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（りん）の達成度。	高知県衛生環境研究所が調査実施	流域全体平均 0.015mg/L以下	流域全体平均 0.018mg/L	×	無	—	現行どおり	・将来的には、調査地点を絞り込むことなど、調査方法の見直し検討が必要（持続可能性の考慮）
【3】	生活排水の浄化率（污水处理人口普及率） [住民] [行政] → 	四万十川流域5市町の下水道・集落排水施設・合併浄化槽等の処理区域内人口を行政区域内人口で割った値	高知県公園下水道課に照会	76.88%以上	79.90%	○	有	目標値	76.88%以上 → 83%以上	・「高知県全県域生活排水処理構想2018」に定められた流域市町の2027年（令和9年）の目標値82.93%を参考とし、変更
【4】										
【5】	四万十川一斉清掃の参加率 [住民]	四万十川一斉清掃への参加者の割合	流域市町に照会	9.0%以上	6.38%	×	無	—	現行どおり	—
【6】	水切り袋の普及率 [住民] → 	水切り袋の普及率について、住民意識調査（四万十川条例第37条）を実施	住民意識調査	86.1%以上	88.3%	○	有	目標値	86.1%以上 → 93%以上	・過去10年間の普及率を考慮し、変更
【7】	環境に配慮した砂防・治山ダム数 [行政]	土砂供給が可能な砂防堰堤、環境に配慮した木製治山ダムの基数	高知県防災砂防課、高知県治山林道課に照会	無	7基 （H30以降変動なし）	—	無	—	現行どおり	—
【8】	四万十川（具同・大正）における流況 [行政]	四万十川の具同及び大正における流況（豊水、平水、低水、渇水の各流量及び水量感）	国土交通省水質水文データベース	無	豊水流量はやや減少 その他流量は横ばい	—	無	—	現行どおり	—
【9】	四万十川における河床高の状況 [行政]	四万十川本川における河床高の推移（平均河床高、最深河床高）	高知県自然共生課調べ	無	※調査未実施	—	無	—	現行どおり	・調査地点や箇所数などについて、専門家の意見もいただきながら再検討し、予算化が必要
【10】	魚類・底生生物の確認種数 [行政]	四万十川本川（国管理区間）における魚類、底生動物の確認種数	河川水辺の国勢調査	無	魚類71種 底生生物236種	—	無	—	現行どおり	—

令和４年度項目		令和４年度項目内容	令和４年度調査方法	令和４年度 目標値	令和４年度の 実績値など	達成 状況	見直し の有無	見直し 箇所	見直し内容	備考
1 生態系及び景観の保全 （２）森林、農地及び草地在適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること										
【11】	森林認証の認証状況 ①森林管理協議会、緑の循環認証会議の認証団体数 [住民]	森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証団体数	高知県林業環境政策課に照会	無	4 団体 （H30以降変動なし）	－	無	－	現行どおり	－
	②森林管理協議会、緑の循環認証会議の認証森林面積 [住民]	森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証森林面積	高知県林業環境政策課に照会	無	21,233ha （ほぼ変動なし）	－	無	－	現行どおり	－
【12】	環境保全型農業の実施状況 ①化学肥料等に頼らない事業者数 [住民]	JAS有機認定事業者数	高知県環境農業推進課に照会	無	H30 28戸 → R4 8戸 （認証方法変更による）	－	無	－	現行どおり	－
	②農業低減に取り組んでいる栽培面積 [住民]	エコファーマーの認定を受けて化学肥料低減などの「持続的な農業生産方式」に取り組んでいる栽培面積や環境保全型農業直接支払交付金を活用し化学肥料低減などに取り組んでいる栽培面積	高知県環境農業推進課に照会	無	H30 356ha → R4 258ha	－	無	－	現行どおり	－
【13】	リサイクル肥料の年間生産状況（単年値） [住民]	リサイクル肥料（魚かす、汚泥肥料や樹皮、牛糞、豚糞、生ゴミ、汚泥を利用した堆肥などの特殊肥料）の年間生産量	高知県環境農業推進課に照会	無	H30 8,440t → R4 15,947t	－	無	－	現行どおり	－
【14】	耕作放棄地の面積 [住民] → 変	荒廃農地の面積	高知県農業担い手支援課に照会	無	R2 216ha → R4 95.2ha	－	有	項目名	耕作放棄地の面積 → 荒廃農地の面積	・現項目名と調査内容の不一致解消のための見直し
【15】	除・間伐の面積 [行政]	造林補助事業及び治山事業等の実施により行われた除・間伐の面積	高知県木材増産推進課に照会	無	H30 1,499ha → R4 1,069ha	－	無	－	現行どおり	－
【16】	混合林の面積（単年値） [行政]	林補助事業及び治山事業等により実施された除・間伐のうち水土保全林（保全型）に区分された森林内で行われた強度間伐の面積	高知県木材増産推進課に照会	無	各年度 72ha ～ 733ha （年度計画事業量による）	－	無	－	現行どおり	－
【17】	環境先進企業との官民協働の環境保全 ①協働の森づくり事業における協定件数 [行政]	四万十川流域において、高知県の推進する「協働の森づくり事業」の協定締結件数	高知県林業環境政策課に照会	無	H30 22件 → R4 14件	－	無	－	現行どおり	－
	②協働の川づくり事業における協定件数 [行政] → 変	四万十川流域において、高知県の推進する「協働の川づくり事業」の協定締結件数	高知県自然共生課調べ	2 件以上	1 件	△	有	項目 目標値	項目：環境先進企業との協働の川づくり事業における協定件数→公益財団法人四万十川財団への寄付件数 目標値：無	・四万十川流域においては、「協働の川づくり事業」の協定によらずとも、企業等から（公財）四万十川財団への直接寄附があるため見直し
【18】	有害鳥獣の捕獲数 [行政] → 変	流域市町での有害鳥獣の捕獲数	高知県鳥獣対策課に照会	無	年間捕獲数 ニホンカ 5,404～6,826頭 イノシ 10,262～12,610頭	－	有	目標値	ニホンカ：無→7,000頭以上 イノシ：無→無	・第5期高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画での A 管理ユニットの捕獲目標を参考とし、変更

令和４年度項目		令和４年度項目内容	令和４年度調査方法	令和４年度 目標値	令和４年度の 実績値など	達成 状況	見直し の有無	見直し 箇所	見直し内容	備考	
2 生活・文化・歴史の豊かさの確保 （１）住民の安全かつ快適な生活が保たれていること											
【19】	情報通信網の普及率 ①インターネットの普及率 【住民】	→ 変	流域におけるインターネットの普及率	住民意識調査	45%以上	H24 42.3% → H29 44% → R4 61.4%	○	有	目標値	45%以上→78.8%以上	・目標値を達成したが今後も普及が見込まれるため、令和４年度の普及率に過去５年間の伸びを加算した78.8%に変更
	②携帯電話の普及率 【住民】	→ 廃	流域における携帯電話の普及率	住民意識調査	85.5%以上	H24 78.2% → H29 83.6% → R4 96.2%	○	有	項目	項目廃止	・日本社会において携帯電話が当たり前になり普及しているため
【20】	生活満足度 【住民】		流域における安全、快適などの生活満足度	住民意識調査	無	H24 65.5% → H29 68.4% → R4 67.9%	－	無	－	現行どおり	－
【21】	ネットワーク道路の安全・快適度 ①道路改良率 【行政】		R 197、R 381、R 439、R 440、R 441、県道窪川船戸線の道路改良率状況	高知県道路課に照会	無	H30 75.7% → R4 77%	－	無	－	現行どおり	－
【21】	②道路情報板等の整備状況 【行政】		R 197、R 381、R 439、R 440、R 441、県道窪川船戸線の道路情報板等の設置数	高知県道路課に照会	無	H30 20基 → R4 21基	－	無	－	現行どおり	－
【21】	③交通事故の年間発生件数 【行政】		人口1,000人当たりの交通事故の年間発生件数	高知県警察本部に照会	無	H30 1.1 → R4 1.0	－	無	－	現行どおり	－
【22】	地元中高卒者の地元就職率 【行政】	→ 変	中高校生の地元への就職率	流域市町の中学校、高校に照会	無	H30 36.2 → R4 15.4	－	有	項目	地元中高卒者の地元就職率→地元高卒者の地元就職率	・中学生の大多数が高校へ進学していることから、高卒者のみに変更
【23】	子どもの人数 【行政】		流域市町の15歳未満人口	毎年10月１日現在の推計人口	無	H30 6,979人 → R4 6,344人	－	無	－	現行どおり	－
2 生活・文化・歴史の豊かさの確保 （２）四万十川が子どもの遊び場として活用されていること											
【24】	川で遊んだ子どもの割合 【住民】		川で遊んだ流域の子ども（小・中学生）の割合	流域の小学校、中学校に照会	無	H30 64.9% → R4 67.4%	－	無	－	現行どおり	－
【25】	カヌー、ＳＵＰ等を体験した子どもの割合 【住民】		カヌー、SUP等を体験した子ども（小・中学生）の割合	流域の小学校、中学校に照会	無	H30 18.2% → R4 20.2%	－	無	－	現行どおり	－
【26】	川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合 【住民】		川で魚やエビなどを捕ったことのある子ども（小・中学生）の割合	流域の小学校、中学校に照会	無	H30 44.5% → R4 43.8%	－	無	－	現行どおり	－
【27】	子どもが自由に魚を釣れる場所数 【行政】		子どもが自由に魚を釣れる場所数	流域の小学校、中学校に照会	無	H14以降全区間可能	－	無	－	現行どおり	－
【28】	水生生物調査実施校の割合 【行政】		総合的な学習で水生生物調査を実施した流域小中学校の割合	流域の小学校、中学校に照会	無	H30 38.8% → R4 57.5%	－	無	－	現行どおり	－
【29】	水質調査実施校の割合 【行政】		総合的な学習で水質調査を実施した流域小中学校の割合	流域の小学校、中学校に照会	無	H30 24.5% → R4 40%	－	無	－	現行どおり	－
【30】	自然体験型修学旅行の実施校数 【行政】	→ 変	流域で実施された自然体験型修学旅行の実施校数	流域市町に照会	30校以上	H30 13校 → R4 21校	×	有	目標値	30校以上→25校以上	・少子高齢化などに伴い、将来的にも学校の統廃合が進んでいく可能性を考慮し、変更

令和４年度項目		令和４年度項目内容	令和４年度調査方法	令和４年度 目標値	令和４年度の 実績値など	達成 状況	見直し の有無	見直し 箇所	見直し内容	備考
2　生活・文化・歴史の豊かさの確保　（３）四万十川を生かした産業が活発化し、持続的に発展していること										
【31】	農家民宿の軒数（単年値）　　〔住民〕	農家民宿の軒数	高知県地域観光課に照会	無	H30 25軒 → R4 14軒	－	無	－	現行どおり	・農家民宿に代わり、最近ではＢ＆Ｂが増えてきたとの声も聞かれるが、Ｂ＆Ｂに関する調査や統計がなく、実態は不明
【32】	四万十ブランド認証の認証件数 〔住民〕	流域の産品などをブランドとして認証する四万十ブランド認証制度の認証件数	（公財）四万十川財団に照会	無	H30 10件 → R4 6件	－	有	項目	項目廃止	・（公財）四万十川財団実施の「四万十ブランド認証事業」は一定役割を終えたとの判断で廃止したため（理事会承認済）
【33】	地産の状況（単年度） ①農協直売販売所等における地元農産物の販売額　　〔住民〕	農協直売販売所等における地元農産物の販売額	高知県地域農業推進課に照会	無	H30 1,922百万円 → R4 1,781百万円	－	無	－	現行どおり	－
	②入漁券（日釣券）の販売額 〔住民〕	入漁券の販売額	四万十川上流淡水漁協、 四万十川漁協連合会に照会	無	H30 8,203千円 → R4 9,558千円	－	無	－	現行どおり	－
【34】	漁獲量（単年度）　　〔行政〕	アユ、ウナギ、アオノリ及びテナガエビの漁獲量	四万十川西部漁協	無	H30 → R4の漁獲量 アユ 24,553kg → 15,769kg ウナギ 3,215kg → 1,243kg アオノリ 1kg → 0 テナガエビ 45.9kg → 241kg	－	無	－	現行どおり	－
【35】	公共事業における木材の利用状況 ①県有施設の木造化及び内装の木質化率 〔行政〕	(1) 新規公共建築物施設（国、県、市町村）における木造化率 (2) 県有施設の新規公共建築施設における木造木質化率	高知県建築指導課に照会 高知県木材産業振興課に照会	(1) 100% (2) 50%以上	(1) 100% (2) 57.1%	○	無	－	現行どおり	－
	②公共土木工事での木材利用量 〔行政〕	公共土木工事での木材利用量	高知県木材産業振興課に照会	12㎡/億円	H30 10.2㎡/億円 → R4 12.5㎡/億円	○	無	－	現行どおり	－
2　生活・文化・歴史の豊かさの確保　（４）地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと										
【36】	環境保全に取り組むＮＰＯ・ボランティアの団体数（累計値）　　〔住民〕	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数	高知県林業環境政策課、 高知県県民生活課に照会	無	H30 23団体 → R4 20団体	－	無	－	現行どおり	－
【37】	グリーンツーリズムの交流人口 〔住民〕	四万十川すみずみツーリズム協議会員の農家民宿等の宿泊利用者数の合計	（公財）四万十川財団に照会	無	H30 78.8% → R4 72.1%	－	無	－	現行どおり	－
【38】	環境活動リーダー・インタープリター等の人数　　〔行政〕	生物多様性こうち戦略推進リーダー（四万十川流域に限定）の登録者数、（公財）四万十川財団の四万十リバーマスター数の合計	高知県自然共生課調べ、 （公財）四万十川財団に照会	無	H30 97人 → R4 112人	－	有	項目名	環境活動リーダー・インタープリター等の人数→四万十リバーマスター等の人数	・環境活動リーダー・インタープリターは講座が終了したため
【39】	交流人口の状況 ①四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客　　〔行政〕	四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客数	流域市町に照会	137千人以上	H30 178千人 → R4 65千人	×	無	－	現行どおり	・未達成の主な要因 新型コロナウイルス感染拡大の影響
	②流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数　　〔行政〕	流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数	流域市町に照会	無	H30 86千人 → R4 105千人	－	無	－	現行どおり	－
	③流域の道の駅等の利用者数　　〔行政〕	流域の道の駅等の利用者数	流域市町に照会	無	H30 945千人 → R4 1,327千人	－	無	－	現行どおり	－
【40】	流域の人口 ①流域の人口　　〔行政〕	流域市町の推計人口	毎年10月１日現在の推計人口	無	H30 65,083人 → R3 61,843人	－	無	－	現行どおり	－
	②県外からの移住者数　　〔行政〕	県外から流域市町への移住者（Iターン、Uターン）数	高知県移住促進課に照会	無	H30 172人 → R4 216人	－	無	－	現行どおり	－

令和４年度項目		令和４年度項目内容	令和４年度調査方法	令和４年度 目標値	令和４年度の 実績値など	達成 状況	見直し の有無	見直し 箇所	見直し内容	備考
2 生活・文化・歴史の豊かさの確保 （５）文化・歴史を保全活用していること										
【41】	伝統祭事の実施状況 〔住民〕	神楽、花取踊り、大文字の送り火などの祭事の実施数	流域市町に照会	66件	H27 66件 → H30 59件 → R4 50件	×	無	－	現行どおり	－
【42】	伝統漁法の実施状況 ①伝統漁法の許可件数（実績件数） 〔住民〕	流域漁協における漁法の許可件数（実績件数）	四万十川上流淡水漁協、 四万十川漁協連合会に照会	無	H30 → R4 火光利用漁 459 → 439 しめ縄 43 → 43 その他（まきさし網、地曳 網、建網） 38 → 33 瀬張網漁 4 → 4	－	無	－	現行どおり	－
	②船大工の人数 〔住民〕	流域漁協が把握している舟大工の人数	四万十川上流淡水漁協、 四万十川漁協連合会に照会	無	H30 4人 → R4 4人	－	無	－	現行どおり	－
	③川漁師の人数 〔住民〕	流域漁協が把握している専業川漁師の人数	四万十川上流淡水漁協、 四万十川漁協連合会に照会	無	H28 3人→ H30 なし → R4 8人	－	無	－	現行どおり	－
【43】	博物館・資料館の入場者数 〔住民〕	四万十市幡多郷土資料館、梶原町立歴史民俗資料館の入 場者数	四万十市、梶原町に照会	無	H30 8,362人 → R4 8,736人	－	無	－	現行どおり	－
【44】	シンボルの伝統家屋等 〔住民〕 → 	梶原町、東津野村、大正町、十和村の茶堂のか所数（町 指定民俗・有形民俗文化財）	流域市町に照会	16件	H29 16件 → H30 17件 → R4 17件	○	有	目標値	16件→17件	・現在のシンボルの家屋を後生に残すため
【45】	適正に管理保存された沈下橋数 〔行政〕	四万十川沈下橋保存方針の対象沈下橋数	高知県自然共生課調べ	48橋	R4 48橋	○	無	－	現行どおり	－
【46】	伝統漁具の保存・継承状況 〔行政〕	四万十川流域の漁具の収集、保存状況	高知県歴史民俗資料館に 照会	192点	R4 192点	○	無	－	現行どおり	－
【47】	有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天 然記念物数 〔行政〕	国県指定の箇所数	自然共生課調べ	無	H30 49箇所 → R2 50箇所 → R4 50箇所	－	無	－	現行どおり	－
【48】	重要文化的景観選定地区における重要構成 要素の箇所数 〔行政〕	四万十川流域の文化的景観選定地区内において、重要構 成要素として位置付けられている箇所数	高知県文化財課に照会	無	H30 334件 → R4 329件	－	無	－	現行どおり	－
【49】	文化財等の活用状況 〔行政〕	流域の文化財等を活用したイベント等の開催件数	流域市町に照会	無	H30 13件 → R4 4件	－	無	－	現行どおり	－

令和４年度項目		令和４年度項目内容	令和４年度調査方法	令和４年度 目標値	令和４年度の 実績値など	達成 状況	見直し の有無	見直し 箇所	見直し内容	備考
2 生活・文化・歴史の豊かさの確保 （６）環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること										
【50】	エコカー（低公害車）の保有台数 〔住民〕	グリーン化税制対象車（低公害車のみ）の保有台数	高知県税務課に照会	無	H30 3,521件 → R4 4,308件	－	無	－	現行どおり	－
【51】	ゴミの排出状況 ①流域住民１人当たりの1日のゴミの量 〔住民〕	年間総排出量を流域住民基本台帳による人口で割り、さらに日数で割った値	高知県環境対策課に照会	843g以下	H30～R4 平均 987g	×	有	目標値	843g以下→888g以下	・過去５年間のゴミの平均値の10%削減を目指す形に変更
	②ゴミのリサイクル率 〔住民〕	(資源化量＋集団回収量)／（ゴミ総処理量＋集団回収量）*100	高知県環境対策課に照会	45.9%以上	H30 25.5% → R4 18%	×	有	目標値	45.9%以上→30%以上	・第５期高知県廃棄物処理計画の一般廃棄物のリサイクル率の目標値（25%）を参考に變更
【52】	生ゴミのたい肥化への取組状況（コンポスト容器等の普及率） 〔住民〕	生ゴミのたい肥化への取り組み状況（コンポスト容器等の普及率）	住民意識調査	無	H24 37.9% → H29 33.9% → R4 19%	－	無	－	現行どおり	－
【53】	レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組状況 〔住民〕	流域市町内でレジ袋の無料配布を行っていない店舗数	流域市町に照会	無	H29 6% → R2 8%	－	有	項目	項目廃止	・令和２年７月１日にレジ袋有料化が義務化されたため
【54】	新エネルギー発電の導入容量（累計値） 〔行政〕	個人用住宅における自家発電機設備の設置率（風力、太陽光、廃棄物発電等）	住民意識調査	無	R4 19.7%	－	無	－	現行どおり	－

令和 9 年度目標指標 検討資料 (項目別詳細版)

高知県林業振興・環境部 自然共生課

目次

1	生態系及び景観の保全	1
(1)	四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること	1
【1】	清流基準（清流度・水生生物）の達成度	1
【2】	清流基準（窒素・りん）の達成度	3
【3】【4】	生活排水の浄化率（污水处理人口普及率）	7
【5】	四万十川一斉清掃の参加率	8
【6】	水切り袋の普及率	9
【7】	環境に配慮した砂防・治山ダム数	10
【8】	四万十川（具同・大正）における流況	11
【9】	四万十川における河床高の状況	12
【10】	魚類・底生動物の確認種数	13
(2)	森林、農地及び草地在適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること	14
【11】	森林認証の認証状況	14
【12】	環境保全型農業の実施状況	16
【13】	リサイクル肥料の年間生産状況（単年値）	18
【14】	耕作放棄地の面積	19
【15】	除・間伐の面積	20
【16】	混交林の面積（単年値）	21
【17】	環境先進企業との官民協働の環境保全	22
【18】	有害鳥獣の捕獲数	24
2	生活・文化・歴史の豊かさの確保	26
(1)	住民の安全かつ快適な生活が保たれていること	26
【19】	情報通信網の普及率	26
【20】	生活満足度	28
【21】	ネットワーク道路の安全・快適度	29
【22】	地元中高卒者の地元就職率	32
【23】	子どもの人数	33
(2)	四万十川が子どもの遊び場として活用されていること	34
【24】	川で遊んだ子どもの割合	34
【25】	カヌー、SUP等を体験した子どもの割合	35
【26】	川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合	36
【27】	子どもが自由に魚を釣れる場所数	37
【28】	水生生物調査実施校の割合	38
【29】	水質調査実施校の割合	39
【30】	自然体験型修学旅行の実施校数	40
(3)	四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること	41
【31】	農家民宿の軒数（単年値）	41

【32】 四万十ブランド認証の認証件数.....	41
【33】 地産の状況（単年度）	42
【34】 漁獲量（単年度）	44
【35】 公共事業における木材の利用状況.....	46
（４）地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと	48
【36】 環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数（累計値）	48
【37】 グリーンツーリズムの交流人口.....	49
【38】 環境活動リーダー・インタープリター等の人数.....	50
【39】 交流人口の状況.....	51
【40】 流域の人口.....	54
（５）文化・歴史を保全活用していること	58
【41】 伝統祭事の実施状況.....	58
【42】 伝統漁法の実施状況.....	59
【43】 博物館・資料館の入場者数.....	62
【44】 シンボルの伝統家屋等.....	63
【45】 適正に管理保存された沈下橋数.....	64
【46】 伝統漁具の保存・継承状況.....	65
【47】 有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数.....	66
【48】 重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数.....	67
【49】 文化財等の活用状況.....	68
（６）環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること	69
【50】 エコカー（低公害車）の保有台数.....	69
【51】 ゴミの排出状況.....	71
【52】 生ゴミのたい肥化への取組状況（コンポスト容器等の普及率）	72
【53】 レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組状況.....	73
【54】 新エネルギー発電の導入容量（累計値）	74

1 生態系及び景観の保全

本来、自然が持つ機能を十分に生かしながら、多様な生物や景観を重視した四万十川の保全を図る。

(1) 四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること

【1】清流基準（清流度・水生生物）の達成度

①清流度

項目内容

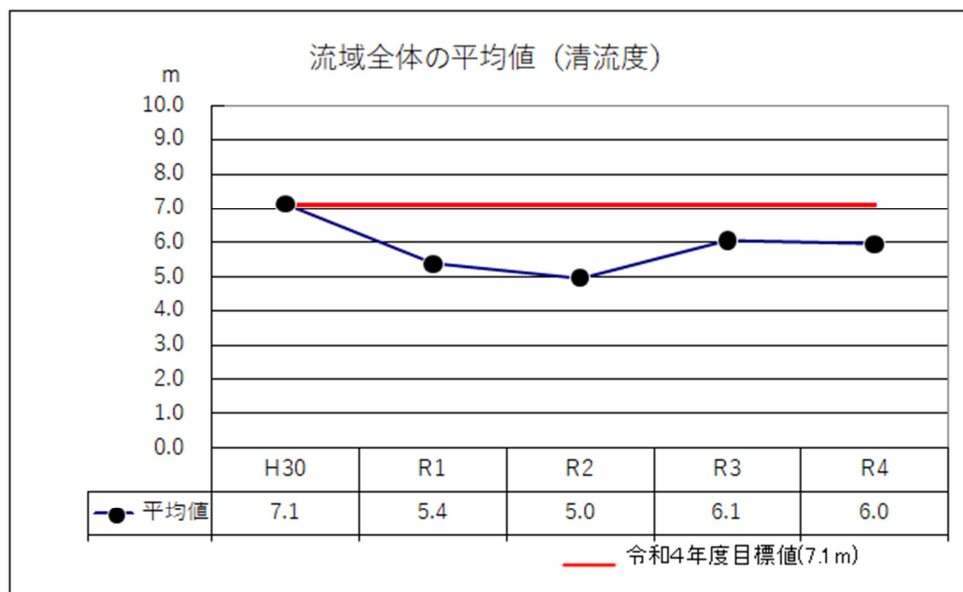
調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（清流度）の達成度。数値が大きいほど川の透明度が高いことを示す。

調査方法

清流基準調査は、本来、調査を地元住民、分析を高知県で実施する方針であった。現在もこの方針に変更はないが、地域の高齢化等で住民参加が減少し、現在は、高知県衛生環境研究所が年4回、調査・分析ともに実施している。

分析・考察

平成30年度のみ目標値を上回ったが、他の4か年では目標値を達成できなかった。平成30年度は四万十川本流の鍛冶屋橋地点に加え、支流黒尊川でも例年に比べ高い値となっており、他の地点でも目標値を上回っていたことから、流域全体で透明度が高かったことがうかがえる。今後も推移を見守っていく必要がある。



※地点別観測結果 P5 参照

項目の見直しについて

特になし。

但し、将来的には、調査地点を絞り込むことなど、時代に合った形で調査方法を見直していく必要あり。

令和9年度目標値（案）

令和4年度目標値（7.1m）からの変更なし。

②水生生物

項目内容

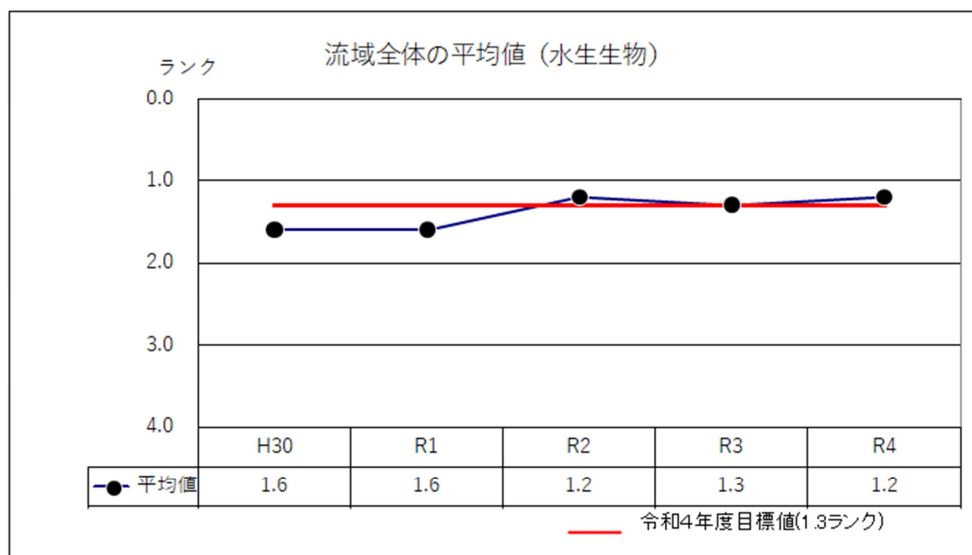
調査地点（本川 5 か所、支川 5 か所）における四万十川条例第 23 条の清流基準（水生生物）の達成度。数値が小さいほどきれいな水を好む生物が多いことを示す。

調査方法

清流基準調査は、本来、調査を地元住民、分析を高知県で実施する方針であった。現在もこの方針に変更はないが、地域の高齢化等で住民参加が減少し、現在は、高知県衛生環境研究所が年 3 回（春、夏、秋）測定し、測定値の平均値を年度実績値として計上している。

分析・考察

平成 30 年度及び令和元年度では流域全体の平均値は目標値に達していないものの、令和 2 年度以降は概ね全地点で改善傾向にある。



※地点別観測結果 P 5 参照

項目の見直しについて

特になし。

但し、将来的には、調査地点を絞り込むなど、時代に合った形で調査方法を見直していく必要あり。

令和 9 年度目標値（案）

令和 4 年度目標値（1. 3 ランク）からの変更なし。清流基準の策定時にランクが 1 の場合はランク 1 を、これ以外の場合は現状より 1 ランク上を目標として基準値を設定している。

【2】清流基準（窒素・りん）の達成度

①窒素

項目内容

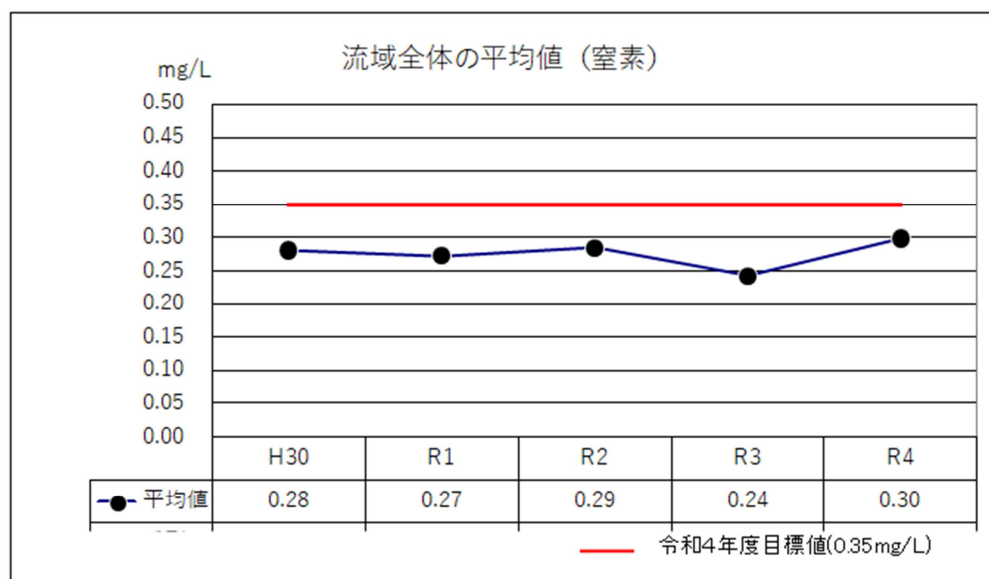
調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（窒素）の達成度（目標値を下回ること達成）

調査方法

高知県衛生環境研究所に調査・分析を依頼し実施している。

分析・考察

流域全体平均値で、目標値を達成している。



※地点別観測結果 P 6 参照

項目の見直しについて

特になし。

但し、将来的には、調査地点を絞り込むなど、時代に合った形で調査方法を見直していく必要あり。

令和9年度目標値（案）

清流基準の策定時に人為的汚染が少ないと考えられる地点は0.3mg/L、これ以外の地点は、現状よりも0.1mg/L低い値を目標として基準値を設定していることから、変更なし。

②りん

項目内容

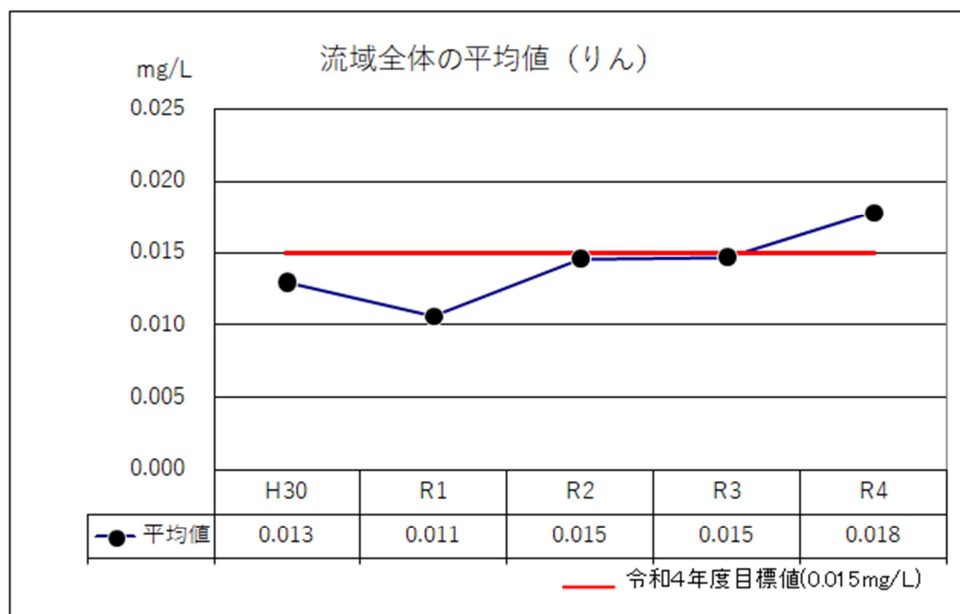
調査地点（本川5か所、支川5か所）における四万十川条例第23条の清流基準（りん）の達成度（目標値を下回ること達成）

調査方法

高知県衛生環境研究所に調査・分析を依頼し実施している。

分析・考察

流域全体平均値では、令和3年度以前は目標値を達成していたが、令和4年度は目標を下回っている。今後も推移を見守っていく必要がある。



※地点別観測結果 P 6 参照

項目の見直しについて

特になし。

但し、将来的には、調査地点を絞り込むなど、時代に合った形で調査方法を見直していく必要あり。

令和9年度目標値（案）

清流基準の策定時に人為的汚染が少ないと考えられる地点は0.01mg/L、これ以外の地点は、現状よりも0.01mg/L低い値を目標として基準値を設定していることから、変更なし。

(地点別観測結果)

四万十川清流基準(清流度)

単位:m

基準地点			H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R01)	R2	R3	R4	備考
河川名	地点名	基準																						
四万十川	作屋	7.00以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.20	4.70	8.10	8.40	8.30	5.00	4.60	6.10	6.10	
	鍛冶屋瀬橋	7.00以上	5.01	7.43	7.19	4.97	9.53	13.25	9.55	5.30	9.53	6.50	4.30	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～作屋に調査地点変更
	大正 流量観測所	7.00以上	6.69	6.84	6.87	5.53	7.29	11.60	11.70	8.90	7.29	6.40	4.70	5.70	6.10	4.10	10.10	11.30	6.70	5.50	4.90	5.80	7.30	
	十川	7.00以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.70	3.60	6.70	7.40	6.40	4.10	4.30	5.20	5.60	
	用井	6.00以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.30	3.40	6.20	7.50	6.00	4.20	3.90	5.00	5.10	
	橋	6.00以上	5.52	5.50	5.78	5.14	7.00	11.30	7.50	12.20	7.00	5.70	4.40	4.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～用井に調査地点変更
	具同	5.00以上	4.50	5.85	5.25	4.77	4.28	10.10	7.90	10.20	4.28	4.70	3.90	4.60	5.20	5.80	10.00	9.70	6.00	3.70	3.50	4.10	3.40	
仁井田川	根々崎橋	4.00以上	3.01	2.32	2.58	2.39	2.75	2.70	4.30	5.30	2.75	2.60	2.60	2.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
吉見川	本川合流前	3.00以上	2.52	2.74	2.79	1.31	2.43	2.80	3.00	2.80	2.43	3.10	2.40	2.70	3.30	3.20	4.70	2.90	2.70	2.90	2.60	2.80	3.00	
橋原川	田野々大橋	8.00以上	7.86	8.02	7.72	7.25	9.77	10.50	7.75	13.30	9.77	6.70	6.20	7.00	5.70	4.20	8.60	9.10	6.30	5.50	4.30	4.50	5.20	
広見川	川崎橋	4.00以上	2.70	3.58	3.70	3.35	3.51	3.85	4.50	7.30	3.51	3.50	2.10	2.30	3.30	2.50	3.50	3.90	3.30	2.90	2.30	3.40	2.90	
目黒川	本川合流前	10.00以上	7.90	10.17	10.29	8.48	17.95	10.40	14.20	17.10	17.95	12.60	6.90	10.60	7.70	4.60	9.60	11.20	9.30	6.40	7.50	7.90	8.00	
黒尊川	本川合流前	14.00以上	13.41	14.24	14.25	15.48	20.15	21.40	18.10	22.20	20.15	15.40	11.90	15.60	12.90	13.40	17.40	19.40	16.30	14.70	11.80	15.80	12.90	
後川	後川橋	3.00以上	2.68	2.22	1.93	1.20	4.07	7.10	6.40	6.60	4.07	2.70	3.40	2.90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
中筋川	坂本橋	2.00以上	1.12	0.75	1.14	0.89	1.04	2.30	1.85	2.90	1.04	1.20	0.90	1.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
注1) 四万十川清流基準測定値については、春季、夏季、秋季、冬季の平均値である。(ただし、水生生物は、春季、夏季、秋季の平均値) 注2) 平成26年度より、調査地点を見直している。																								

基準値を満たしていない

四万十川清流基準(水生生物)

単位:ランク

基準地点			H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R01)	R2	R3	R4	備考
河川名	地点名	基準																						
四万十川	作屋	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
	鍛冶屋瀬橋	1	2	2	2	2	2	2	3	3	2	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～作屋に調査地点変更
	大正 流量観測所	1	1	1	1	1	2	1	3	1	2	3	4	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	
	十川	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	2	2	2	2	1	1	1	
	用井	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	2	2	1	1	1	
	橋	1	2	1	2	1	2	2	1	1	2	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～用井に調査地点変更
	具同	1	2	1	2	2	2	3	3	3	2	3	3	2	1	3	2	2	2	2	2	2	2	
仁井田川	根々崎橋	2	2	2	3	3	3	3	1	2	3	3	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
吉見川	本川合流前	4	5	5	5	5	5	6	5	6	5	5	4	3	4	3	3	2	3	3	2	3	2	
橋原川	田野々大橋	1	1	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	
広見川	川崎橋	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	
目黒川	本川合流前	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	
黒尊川	本川合流前	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
後川	秋田橋	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
中筋川	五反田橋	3	4	4	4	3	4	3	3	3	4	5	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
注1) 四万十川清流基準測定値については、春季、夏季、秋季、冬季の平均値である。(ただし、水生生物は、春季、夏季、秋季の平均値) 注2) 平成26年度より、調査地点を見直している。																								

基準値を満たしていない

四万十川清流基準(全リン)

単位:mg/L

基準地点			H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R01)	R2	R3	R4	備考
河川名	地点名	基準																						
四万十川	作屋	0.01以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.005	0.007	0.005	0.004	0.003	0.007	0.009	0.009	0.010	
	鍛冶屋瀬橋	0.01以下	0.013	0.008	0.009	0.013	0.010	0.004	0.007	0.004	0.010	0.007	0.012	0.017	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～作屋に調査地点変更
	大正流量観測所	0.01以下	0.010	0.009	0.009	0.009	0.006	0.005	0.008	0.002	0.006	0.008	0.012	0.010	0.009	0.008	0.004	0.003	0.005	0.006	0.009	0.010	0.008	
	十川	0.01以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.006	0.007	0.004	0.002	0.004	0.004	0.006	0.009	0.007	
	用井	0.01以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.005	0.007	0.003	0.001	0.004	0.004	0.008	0.009	0.007	
	橋	0.01以下	0.010	0.012	0.009	0.010	0.008	0.004	0.007	0.001	0.008	0.008	0.005	0.005	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～用井に調査地点変更
	具同	0.01以下	0.010	0.009	0.012	0.009	0.006	0.005	0.007	0.002	0.006	0.049	0.004	0.006	0.007	0.007	0.004	0.005	0.004	0.004	0.007	0.008	0.008	
仁井田川	根々崎橋	0.04以下	0.056	0.054	0.048	0.057	0.062	0.032	0.053	0.029	0.062	0.055	0.064	0.013	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
吉見川	本川合流前	0.06以下	0.070	0.059	0.052	0.068	0.134	0.109	0.102	0.104	0.134	0.035	0.065	0.096	0.045	0.052	0.052	0.060	0.090	0.065	0.078	0.069	0.105	
橋原川	田野々大橋	0.01以下	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.005	0.008	0.001	0.005	0.004	0.003	0.003	0.005	0.005	0.001	0.001	0.003	0.002	0.005	0.008	0.006	
広見川	川崎橋	0.01以下	0.020	0.026	0.019	0.021	0.013	0.006	0.015	0.001	0.013	0.019	0.018	0.022	0.016	0.022	0.014	0.016	0.012	0.012	0.017	0.015	0.016	
目黒川	本川合流前	0.01以下	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.003	0.004	0.002	0.005	0.002	0.003	0.003	0.002	0.003	0.001	0.000	0.001	0.002	0.004	0.006	0.006	
黒尊川	本川合流前	0.01以下	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.003	0.004	0.001	0.005	0.002	0.003	0.003	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001	0.001	0.003	0.004	0.005	
後川	後川橋	0.01以下	0.048	0.023	0.037	0.035	0.052	0.061	0.031	0.013	0.052	0.024	0.026	0.024	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
中筋川	坂本橋	0.01以下	0.061	0.053	0.056	0.061	0.055	0.108	0.025	0.041	0.055	0.061	0.061	0.074	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

注1) 四万十川清流基準測定値については、春季、夏季、秋季、冬季の平均値である。(ただし、水生生物は、春季、夏季、秋季の平均値)
注2) 平成26年度より、調査地点を見直している。

基準値を満たしていない

四万十川清流基準(全窒素)

単位:mg/L

基準地点			H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R01)	R2	R3	R4	備考
河川名	地点名	基準																						
四万十川	作屋	0.3以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.17	0.24	0.19	0.19	0.16	0.18	0.24	0.16	0.19	
	鍛冶屋瀬橋	0.3以下	0.39	0.30	0.24	0.33	0.33	0.18	0.35	0.37	0.33	0.24	0.39	0.39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～作屋に調査地点変更
	大正流量観測所	0.3以下	0.26	0.28	0.19	0.23	0.28	0.19	0.24	0.21	0.28	0.30	0.27	0.25	0.25	0.22	0.17	0.19	0.16	0.20	0.20	0.20	0.21	
	十川	0.3以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	0.23	0.18	0.19	0.16	0.22	0.19	0.18	0.20	
	用井	0.3以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.27	0.26	0.17	0.17	0.15	0.20	0.23	0.18	0.21	
	橋	0.3以下	0.29	0.31	0.27	0.32	0.29	0.18	0.35	0.22	0.29	0.24	0.27	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26～用井に調査地点変更
	具同	0.3以下	0.25	0.29	0.27	0.30	0.33	0.19	0.29	0.19	0.33	0.31	0.27	0.27	0.20	0.21	0.20	0.23	0.20	0.21	0.20	0.17	0.18	
仁井田川	根々崎橋	1.以下	1.17	1.40	1.19	1.14	1.63	1.37	1.78	1.71	1.63	1.12	1.08	0.79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
吉見川	本川合流前	0.8以下	0.96	1.01	0.69	0.84	1.35	1.25	1.21	1.36	1.35	0.64	0.94	0.92	0.79	0.73	0.66	0.84	1.04	0.77	0.86	0.75	1.00	
橋原川	田野々大橋	0.3以下	0.20	0.20	0.16	0.19	0.15	0.12	0.26	0.20	0.15	0.23	0.24	0.24	0.20	0.23	0.15	0.17	0.14	0.16	0.18	0.17	0.20	
広見川	川崎橋	0.3以下	0.44	0.53	0.37	0.48	0.44	0.31	0.53	0.35	0.44	0.50	0.40	0.41	0.34	0.33	0.33	0.38	0.40	0.31	0.31	0.22	0.26	
目黒川	本川合流前	0.3以下	0.31	0.28	0.26	0.34	0.36	0.28	0.26	0.30	0.36	0.25	0.32	0.33	0.28	0.30	0.23	0.24	0.25	0.30	0.26	0.22	0.27	
黒尊川	本川合流前	0.3以下	0.23	0.22	0.20	0.28	0.25	0.22	0.26	0.19	0.25	0.19	0.28	0.26	0.23	0.18	0.17	0.19	0.15	0.18	0.18	0.18	0.21	
後川	後川橋	0.3以下	0.42	0.38	0.39	0.38	0.58	0.55	0.43	0.26	0.58	0.34	0.39	0.32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し
中筋川	坂本橋	0.5以下	0.70	0.74	0.54	0.75	1.04	0.76	0.83	0.67	1.04	0.60	0.67	0.76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	H26調査地点見直し

注1) 四万十川清流基準測定値については、春季、夏季、秋季、冬季の平均値である。(ただし、水生生物は、春季、夏季、秋季の平均値)
注2) 平成26年度より、調査地点を見直している。

基準値を満たしていない

【3】【4】生活排水の浄化率（汚水処理人口普及率）

項目内容

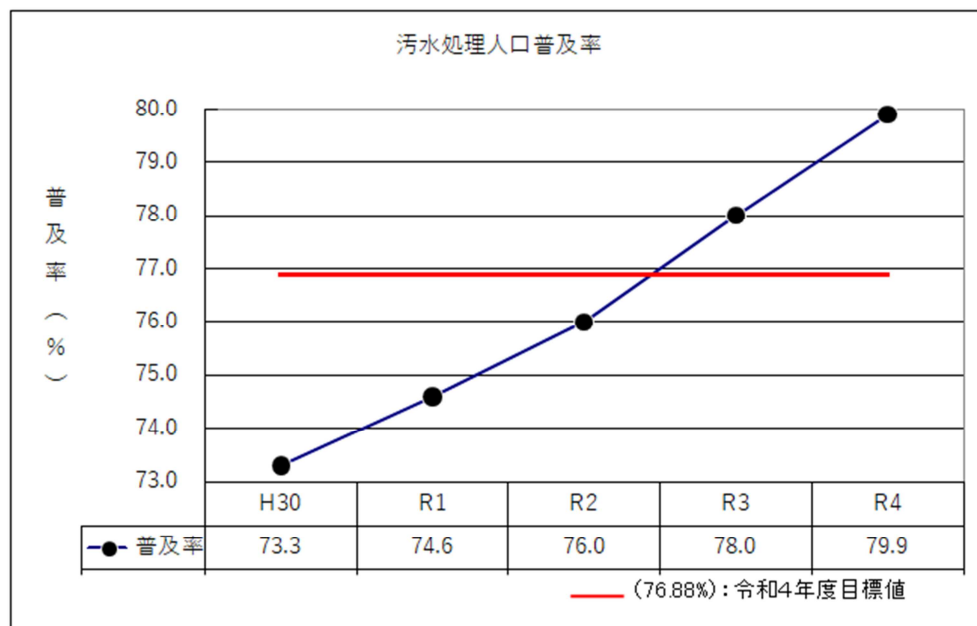
四万十川流域5市町の下水道・集落排水施設・合併浄化槽等の処理区域内人口を行政区域内人口で割った値

調査方法

高知県公園下水道課に照会

分析・考察

汚水処理人口普及率は平成30年度以降増加傾向にあり、令和3年度以降目標値を上回った。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

「高知県全県域生活排水処理構想2018」に定められた流域市町の2027年（令和9年）の目標値82.93%を参考に83%に変更する。

	行政人口（人）	処理区内人口（人）
	2027(R9)	2027(R9)
四万十市	29,760	26,784
中土佐町	5,406	3,798
梼原町	2,923	2,620
津野町	4,806	4,806
四万十町	13,295	8,592
合計	56,190	46,600
汚水処理人口普及率	82.93%	

「高知県全県域生活排水処理構想2018」

【5】四万十川一斉清掃の参加率

項目内容

四万十川一斉清掃への参加者の割合（参加者数/流域人口）

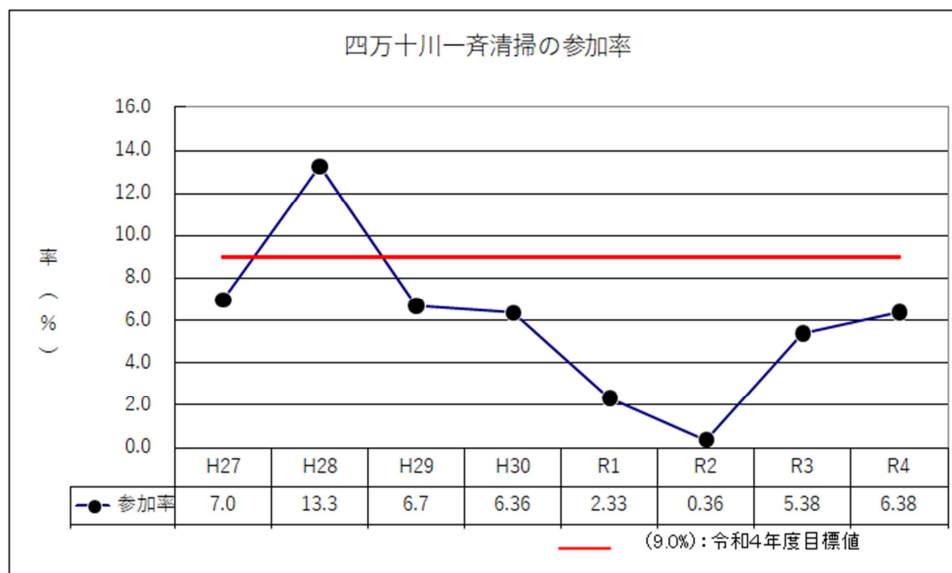
調査方法

流域市町に照会

分析・考察

四万十川一斉清掃の参加率は経年で見ても低調。平成 28 年度が高いのは、例年参加率が低い四万十市で一斉清掃が開催されなかったことによるもの。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で梶原町を除く 4 市町で中止となった。

流域住民の意識を醸成し、活動への参加を促すことが課題と思われる。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、9.0%とする。

【6】水切り袋の普及率

項目内容

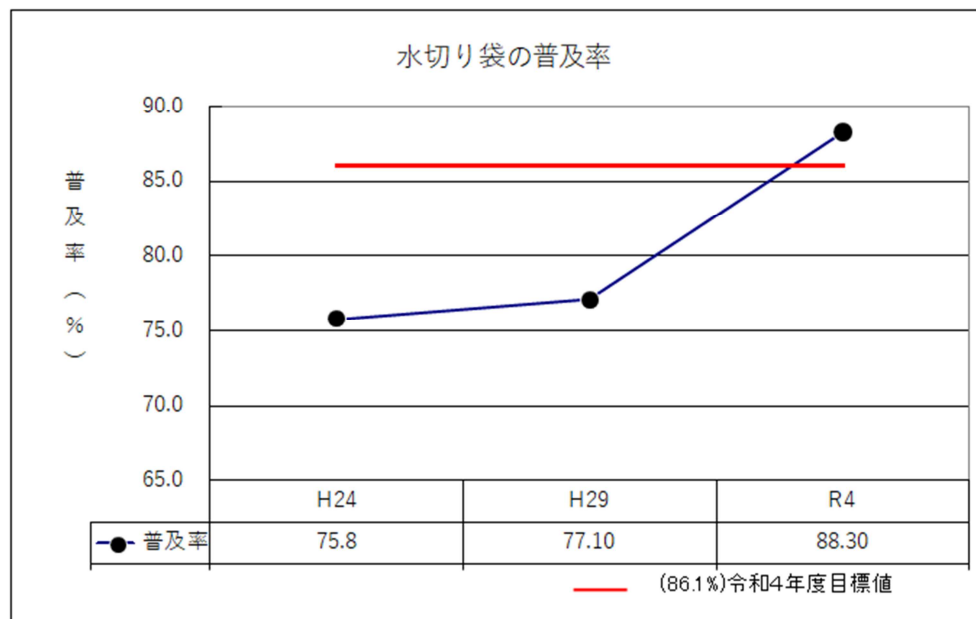
水切り袋の普及率について、住民意識調査（四万十川条例第 37 条）を実施。

調査方法

平成 24 年度、平成 29 年度、令和 4 年度に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（平成 19 年度から 5 年に 1 回の頻度）。

分析・考察

水切り袋の普及率は平成 24 年度から令和 4 年度にかけて 12.5% 上昇し、目標値を達成。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

過去 10 年間の普及率を考慮し、目標値を現行の 86.1% から、93% に変更する。

【7】環境に配慮した砂防・治山ダム数

項目内容

土砂供給が可能な砂防堰堤、環境に配慮した木製治山ダムの基数

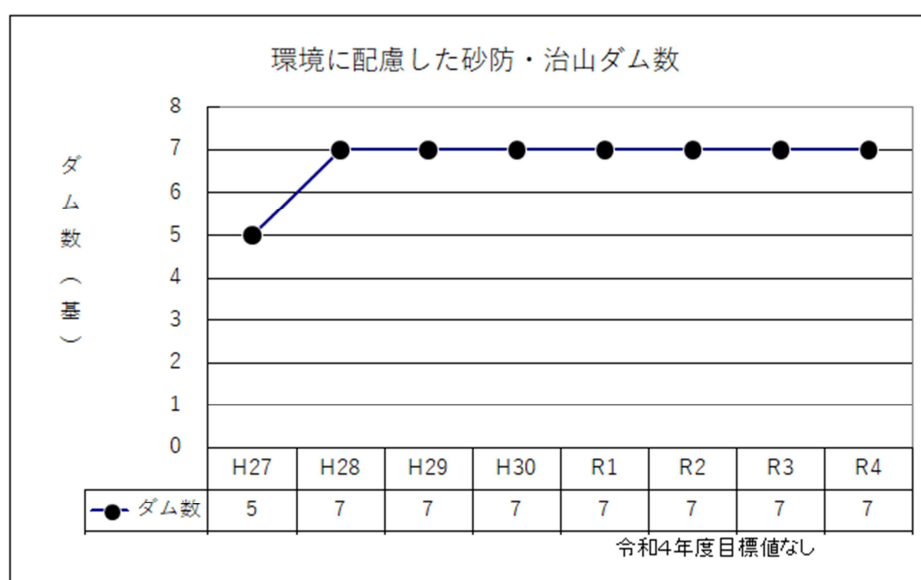
調査方法

高知県防災砂防課（砂防堰堤）、高知県治山林道課（木製治山ダム）に照会

分析・考察

環境に配慮した砂防・治山ダム数は、平成 28 年度に 2 基増加し 7 基となった。

近年、国内外の動きとして、生態学的な配慮から下流への土砂供給が可能な透過型（スリット型）砂防堰堤を設置する事例が増えている。また、防災面でも「平成 30 年 7 月西日本豪雨災害」での教訓から、災害時に一気に大量の土砂が流出しないよう、平常時よりある程度の土砂を下流に流すことの出来る透過型砂防堰堤が見直されている。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【8】四万十川（具同・大正）における流況

項目内容

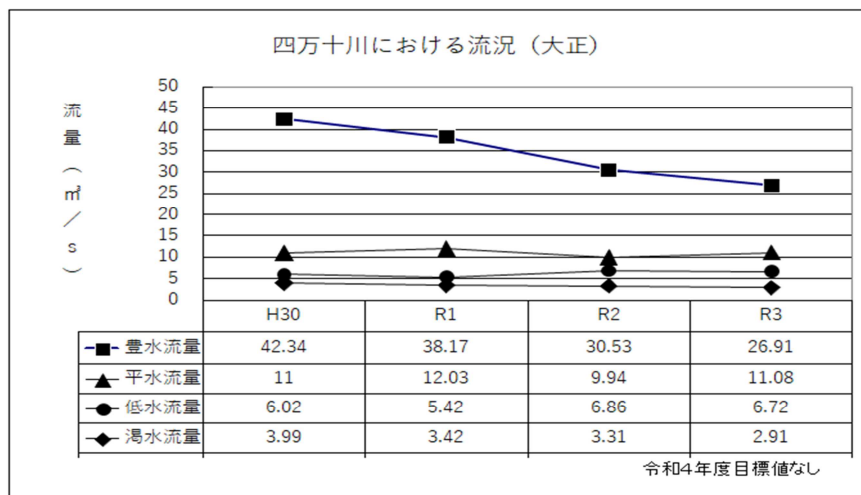
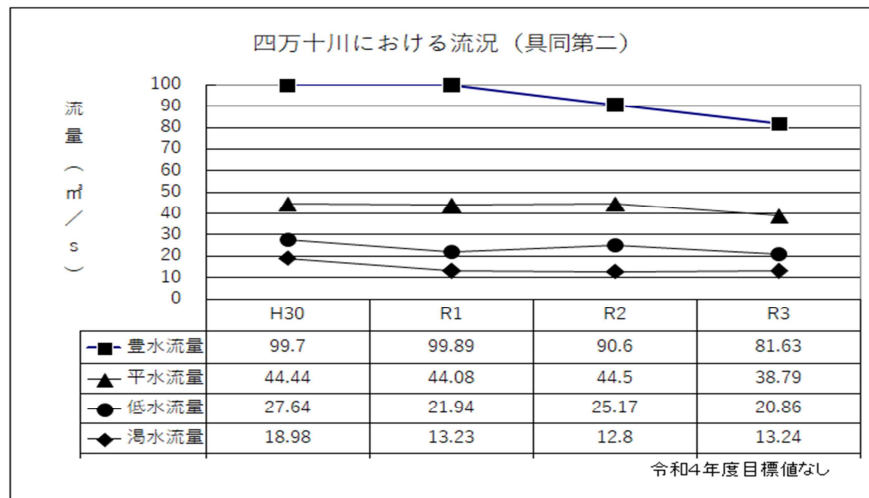
四万十川の具同及び大正における流況（豊水、平水、低水、渇水の各流量及び水量感）

調査方法

国土交通省水質水文データベース、現地調査（水量感）

分析・考察

四万十川の具同及び大正における流況は、平水流量、低水流量、渇水流量はほぼ横ばい状態であるが、豊水流量については徐々に減少傾向にある。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

豊水流量：1年を通じて95日はこれを下らない流量
 平水流量：1年を通じて185日はこれを下らない流量
 低水流量：1年を通じて275日はこれを下らない流量
 渇水流量：1年を通じて355日はこれを下らない流量

【9】四万十川における河床高の状況

項目内容

四万十川本川における河床高の推移（平均河床高、最深河床高）

調査方法

既往調査結果（昭和48年、平成7年）を参考にし、現地測量。

調査地点は、流域状況を考慮して、旧市町村ごとに沈下橋1か所程度を選定する。

分析・考察

基準点測量及び横断測量を実施するための予算化ができず、調査は未実施。

項目の見直しについて

特になし。

但し、令和4年度目標値設定時に想定していた調査地点（沈下橋）については、既往調査結果の基準点測量のデータが残っていないため、今後調査する結果との比較が出来ないことが分かっている。従って、調査地点自体の見直しが可能とも言えるため、今後、どのような地点で調査を行うことが有効であるかや、調査箇所数などについて、専門家の意見もいただきながら検討し、予算化を目指していく方法が考えられる。

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

（令和8年度には調査が可能となるよう予算化が必要。）

【10】魚類・底生動物の確認種数

項目内容

四万十川本川（国管理区間）における）魚類、底生動物の確認種数

調査方法

河川水辺の国勢調査による水生生物の確認種数

分析・考察

平成 30 年度に公開された最新のデータでは、魚類 71 種、底生生物は 236 種だった。

項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

(2) 森林、農地及び草地在適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること

【11】森林認証の認証状況

①森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証団体数

項目内容

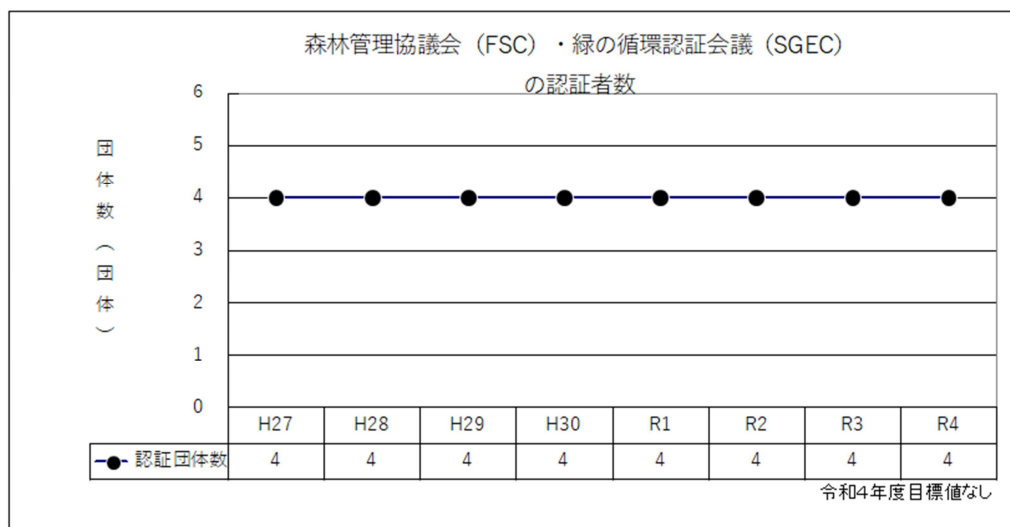
森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証団体数

調査方法

高知県林業環境政策課に照会

分析・考察

森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証団体数は、平成 27 年度以降変動がない。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

②森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証森林面積

項目内容

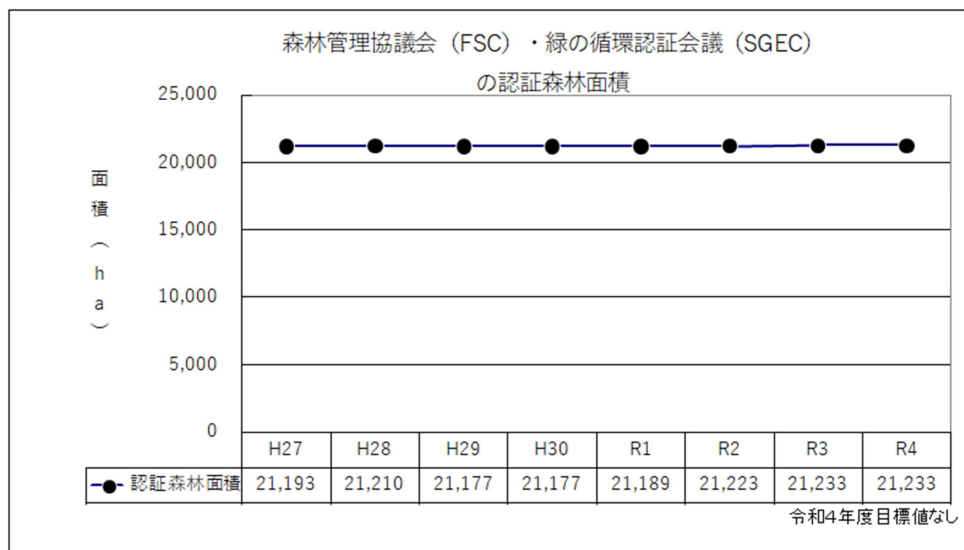
森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証森林面積

調査方法

高知県林業環境政策課に照会

分析・考察

森林管理協議会（FSC）・緑の循環認証会議（SGEC）の認証森林面積は平成 27 年度から令和 2 年度にかけて認証森林面積の微増減があったが、それ以降増減はない。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【12】環境保全型農業の実施状況

①化学肥料等に頼らない事業者数

項目内容

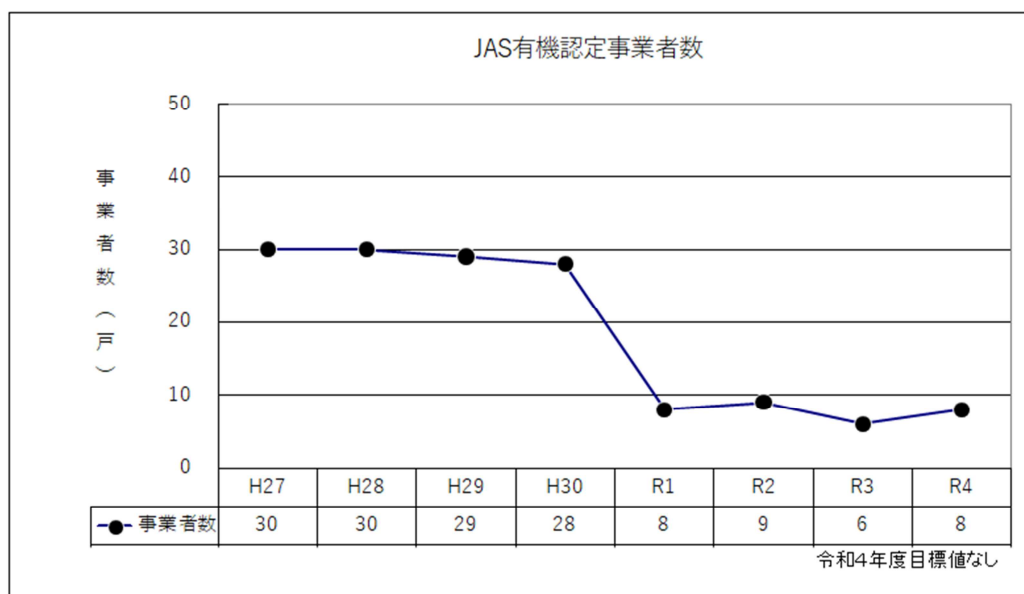
JAS 有機認定事業者数

調査方法

高知県環境農業推進課に照会

分析・考察

J A S有機認定事業者数は平成 30 年度まではほぼ横ばいだったが、令和元年度に団体認証された事業者が認定されなくなったことから 8 戸に減少し、その後はほぼ横ばいである。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

②農薬低減等に取り組んでいる栽培面積

項目内容

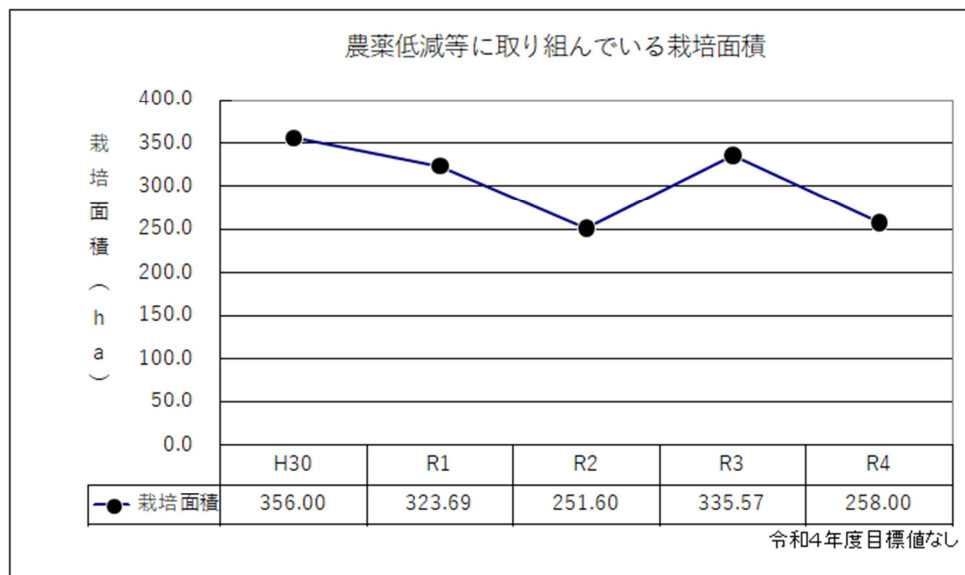
エコファーマーの認定を受けて化学肥料低減などの「持続的な農業生産方式」に取り組んでいる栽培面積や環境保全型農業直接支払交付金を活用し化学肥料低減などに取り組んでいる栽培面積（一部重複あり）

調査方法

高知県環境農業推進課に照会

分析・考察

農薬低減等に取り組んでいる栽培面積は、平成30年度から令和2年度にかけて減少し251.60haとなるも令和3年度に335.57haに増加。しかし、再び令和4年度には258.00haに減少した。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【13】リサイクル肥料の年間生産状況（単年値）

項目内容

リサイクル肥料（魚かす、汚泥肥料や樹皮、牛糞、豚糞、生ゴミ、汚泥を利用した堆肥などの特殊肥料）の年間生産量

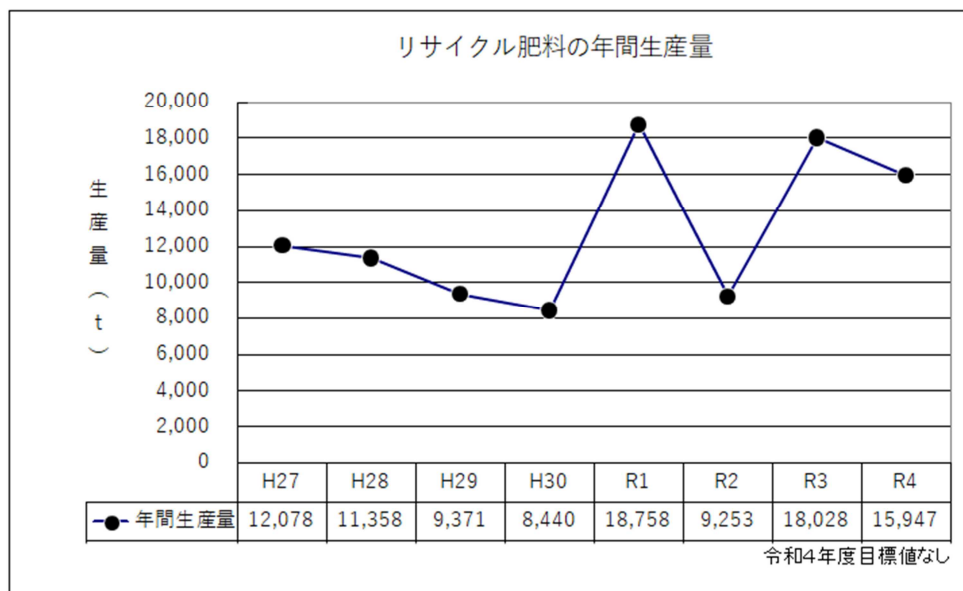
調査方法

高知県環境農業推進課に照会（肥料取締法に基づく届け出、市町村窓口への届出量より）

分析・考察

リサイクル肥料の年間生産量は、平成 27 年度から平成 30 年度にかけて減少したが、令和元年度には倍以上の 18,758t となった。

しかし、令和 2 年度におよそ半減、令和 3 年度にはおよそ倍となるなど、数値の変動が大きい。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【14】耕作放棄地の面積

項目内容

荒廃農地の面積

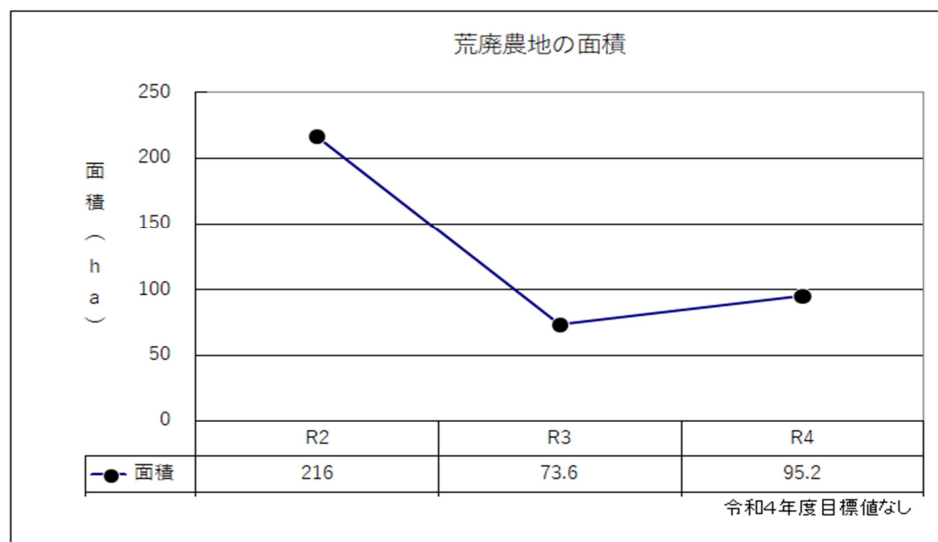
調査方法

高知県農業担い手支援課に照会

分析・考察

令和2年度以前は、調査対象が耕作放棄地の面積であり農林業センサス（5年ごと）の数値としていたが、令和2年度以降は調査対象を荒廃農地の面積に変更し、高知県農業担い手支援課に照会して数値を把握している。

令和2年度から令和3年度にかけて73.6haと大きく減少したが、令和4年度は95.2haと増加した。



項目の見直しについて

現在の調査対象は荒廃農地のため、項目を『荒廃農地の面積』に変更する。

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【15】除・間伐の面積

項目内容

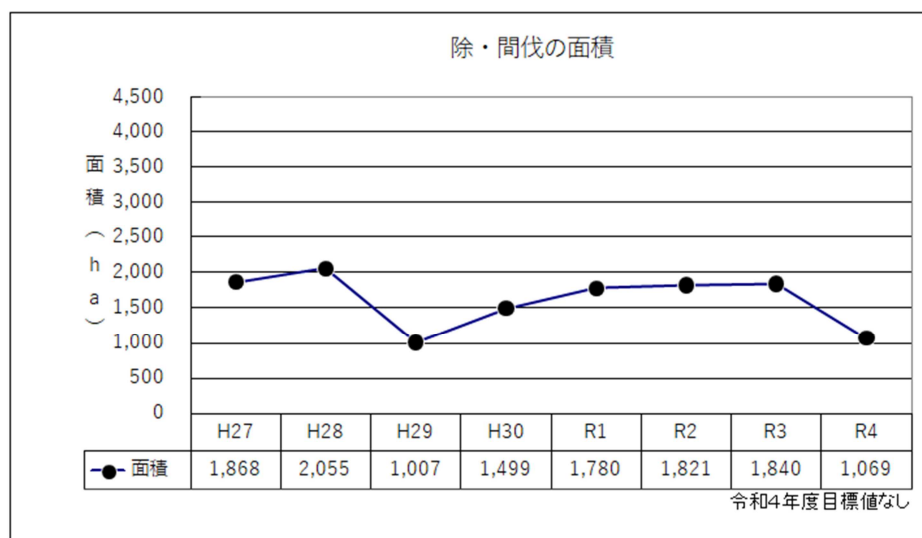
造林補助事業及び治山事業等の実施により行われた除・間伐の面積

調査方法

高知県木材増産推進課に照会

分析・考察

除・間伐の面積は平成 28 年度から平成 29 年度にかけて 1,007ha と大きく減少し、その後は平成 29 年度から令和 3 年度にかけてゆるやかに増加しつつあったが、令和 4 年度に 1,069ha に減少した。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【16】混交林の面積（単年値）

項目内容

造林補助事業及び治山事業等により実施された除・間伐のうち、水土保持林（保全型）に区分された森林内で行われた強度間伐の面積

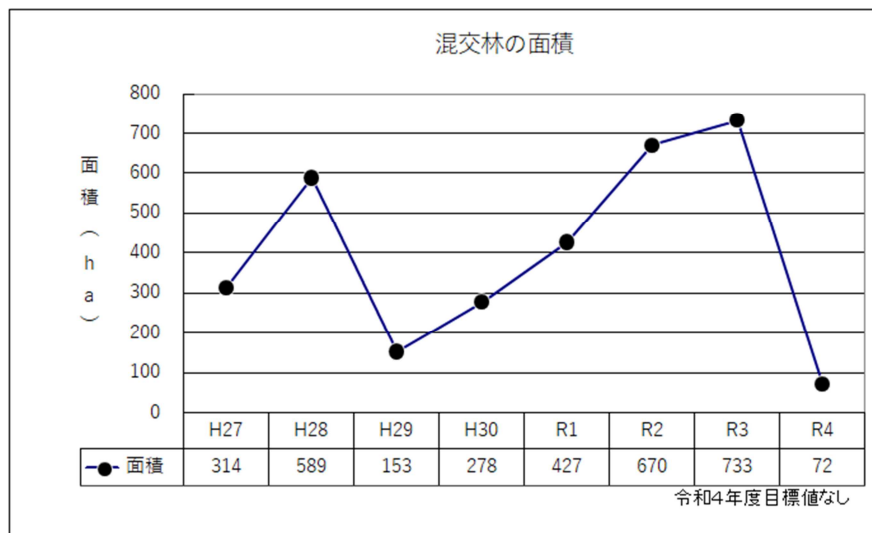
調査方法

高知県木材増産推進課に照会

分析・考察

混交林の面積は、平成 27 年度から平成 28 年度にかけて 589ha と大きく増加したが、平成 29 年度に 153ha と大きく減少した。その後平成 30 年度から令和 3 年度にかけて大きく増加するも令和 4 年度に 72ha と多く減少した。

年によって大きく変動があるのは、森林整備センター中国四国整備局の各年度の事業量によるものである。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【17】環境先進企業との官民協働の環境保全

①協働の森づくり事業における協定件数

項目内容

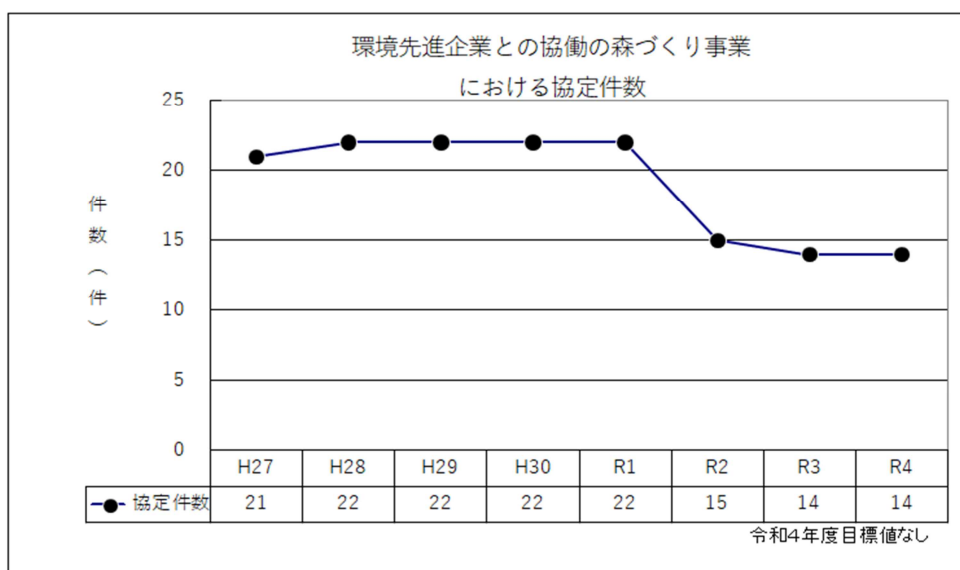
四万十川流域における高知県の推進する「協働の森づくり事業」の協定締結件数

調査方法

高知県林業環境政策課に照会

分析・考察

環境先進企業との協働の森づくり事業における協定件数は、平成27年度から令和元年度にかけてほぼ横ばい状態が続いていたが、令和2年度に7件減少、令和3年度に1件減少し14件となった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

②協働の川づくり事業等における協定件数

項目内容

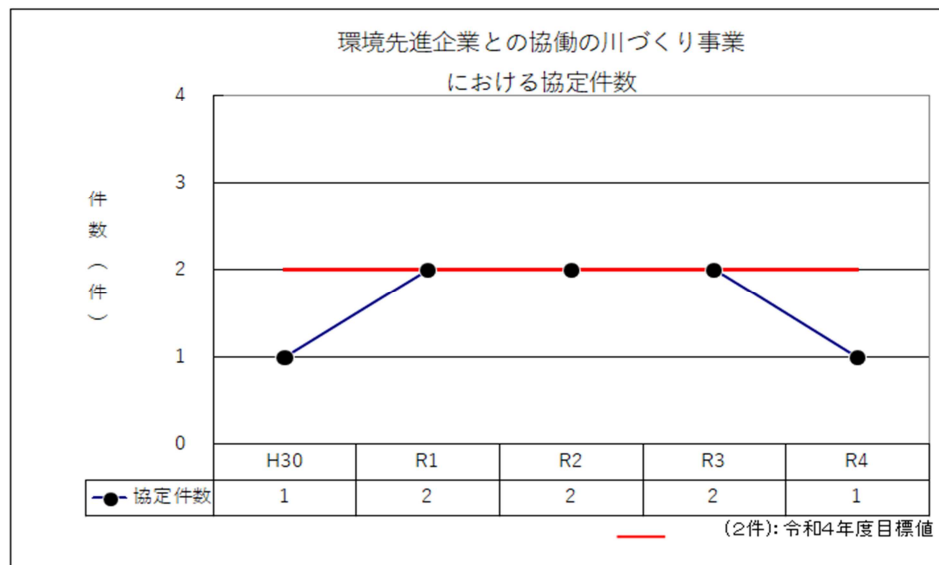
四万十川流域において、高知県の推進する「協働の川づくり事業」の協定締結件数

調査方法

自然共生課調べ

分析・考察

環境先進企業との協働の川づくり事業における協定件数は、令和元年に1件増加し2件となり目標値を達成したが、この企業との協定期間が令和3年度で終了したことから令和4年度に1件となった。



項目の見直しについて

四万十川流域においては、「協働の川づくり事業」の協定によらずとも、企業等から（公財）四万十川財団への直接寄附があることから、項目を『公益財団法人四万十川財団への企業等の寄付件数』に変更する。

令和9年度目標値（案）

目標数値を定めず数値の把握を行う。

【18】有害鳥獣の捕獲数

項目内容

流域市町での有害鳥獣の捕獲数

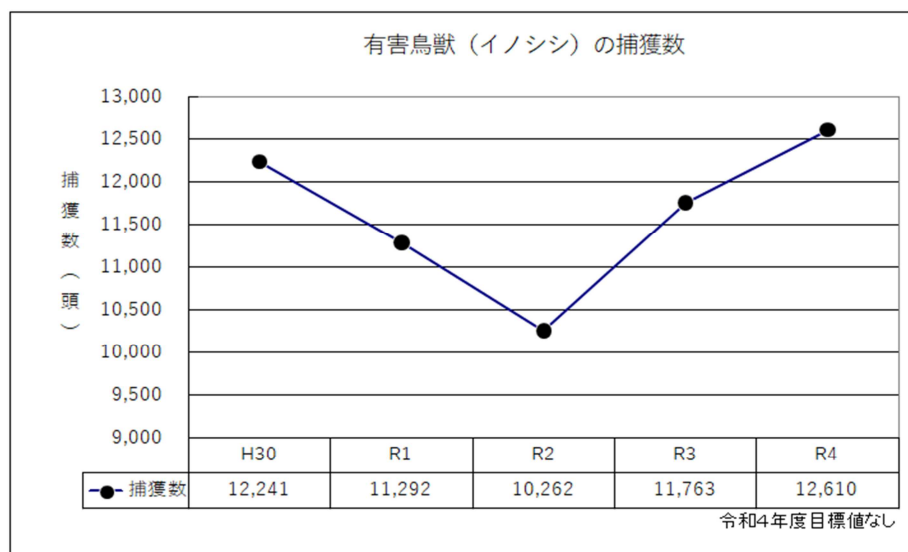
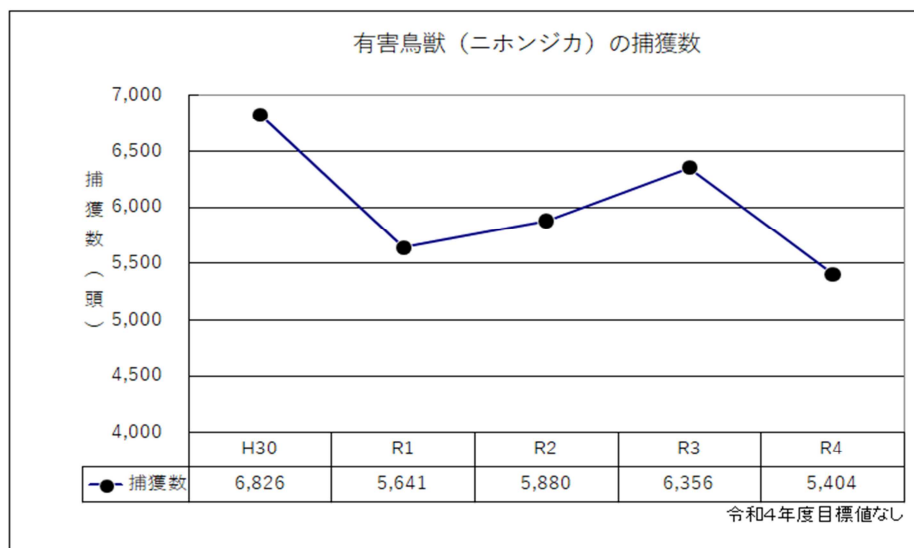
調査方法

高知県鳥獣対策課に照会

分析・考察

ニホンジカの捕獲数は、平成30年度をピークに令和元年度に5,641頭に大きく減少し、その後令和3年度までゆるやかに増加し6,356頭になったが、令和4年度に5,404頭まで減少した。

イノシシの捕獲数は、平成30年度から令和2年度にかけて大きく減少し10,262頭になったが、その後令和4年度にかけて大きく増加し12,610頭になった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

ニホンジカの捕獲数の目標値は、第5期高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画に基づき、7,000頭に設定する。

イノシシの捕獲数の目標値は設定せず、数値を把握していく。

〈参考〉

第5期高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画でのA管理ユニット（宿毛市、土佐清水市、四万十市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町）の捕獲目標は7,000頭に設定されている。

第5期高知県第二種特定鳥獣（イノシシ）管理計画では、高知県全域で20,000頭に設定されている。

2 生活・文化・歴史の豊かさの確保

流域の人々の生活・文化・歴史の豊かさの確保と流域を訪れる人々が感じる魅力の向上に努める。

(1) 住民の安全かつ快適な生活が保たれていること

【19】情報通信網の普及率

①インターネットの普及率

項目内容

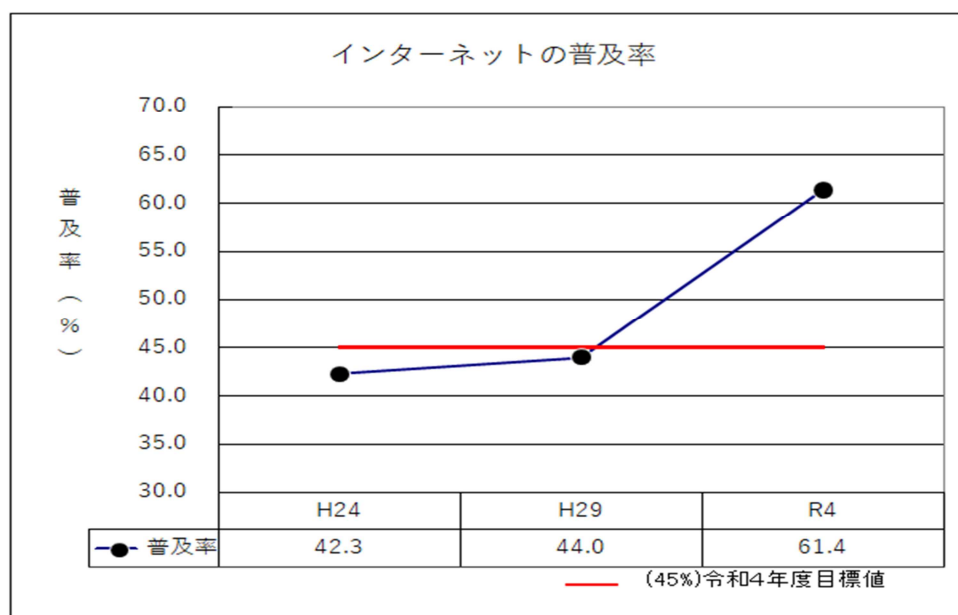
流域におけるインターネットの普及率

調査方法

平成 24 年度、平成 29 年度、令和 4 年度に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（平成 19 年度から 5 年に 1 回の頻度）

分析・考察

インターネットの普及率は平成 24 年度以降増加しており、令和 4 年度に 45.0%という目標値を達成し 61.4%となった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

目標値を達成したが今後も普及が見込まれるため、令和 4 年度の普及率（61.4%）に平成 29 年度からの伸び（17.4%）を加算した 78.8%に変更する。

②携帯電話の普及率

項目内容

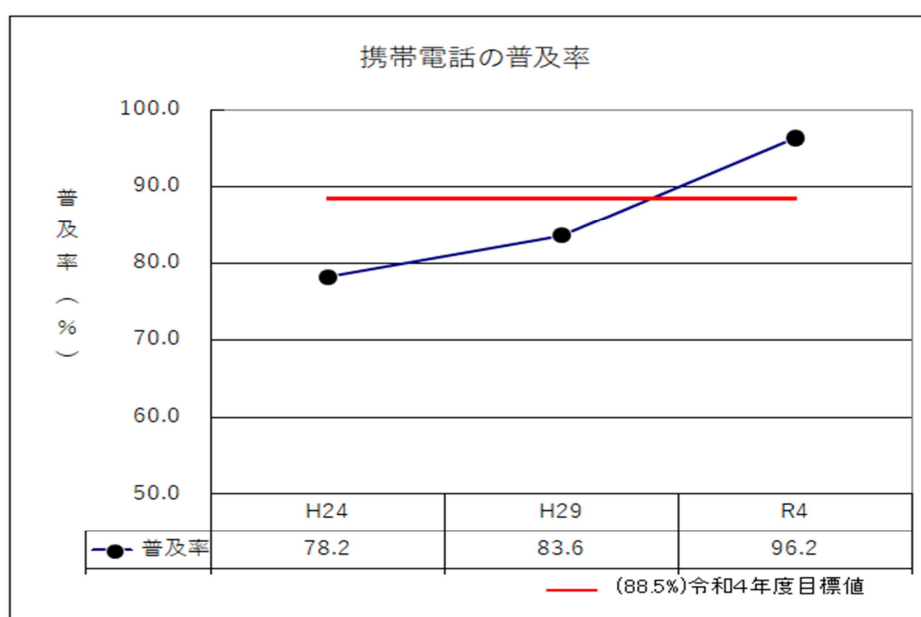
流域における携帯電話の普及率

調査方法

平成 24 年度、平成 29 年度、令和 4 年度に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（平成 19 年度から 5 年に 1 回の頻度）

分析・考察

携帯電話の普及率は徐々に増加しており、令和 4 年度に 88.5% という目標値を達成し 96.2% となった。



項目の見直しについて

携帯電話は日本社会において当たり前に普及してきていることから、項目を廃止する。

【20】生活満足度

項目内容

流域における安全、快適などの生活満足度

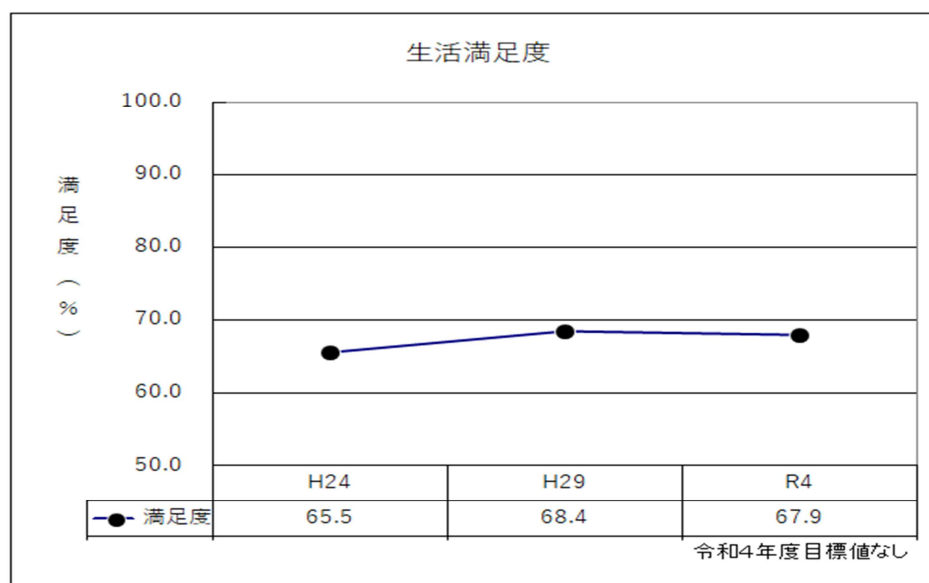
調査方法

平成 19 年度、平成 24 年度、平成 29 年度に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（5 年に 1 回の頻度）

分析・考察

安全、快適などの生活満足度は、平成 24 年度から 29 年度にかけて 2.9%増加しているが、令和 4 年度には 0.5%減少し 67.9%となった。

平成 29 年度から令和 4 年度までの変化を居住地域別に見ると、上流域(栲原町・旧東津野村・旧大野見村)が 5.2%減少した。一方、中流域(旧窪川町・旧大正町・旧十和村)が 4.4%増加した。下流域(旧中村市・旧西土佐村)は 1%の減少であり変化はなかった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【21】ネットワーク道路の安全・快適度

①R197、R381、R439、R440、R441、県道窪川船戸線の道路改良率

項目内容

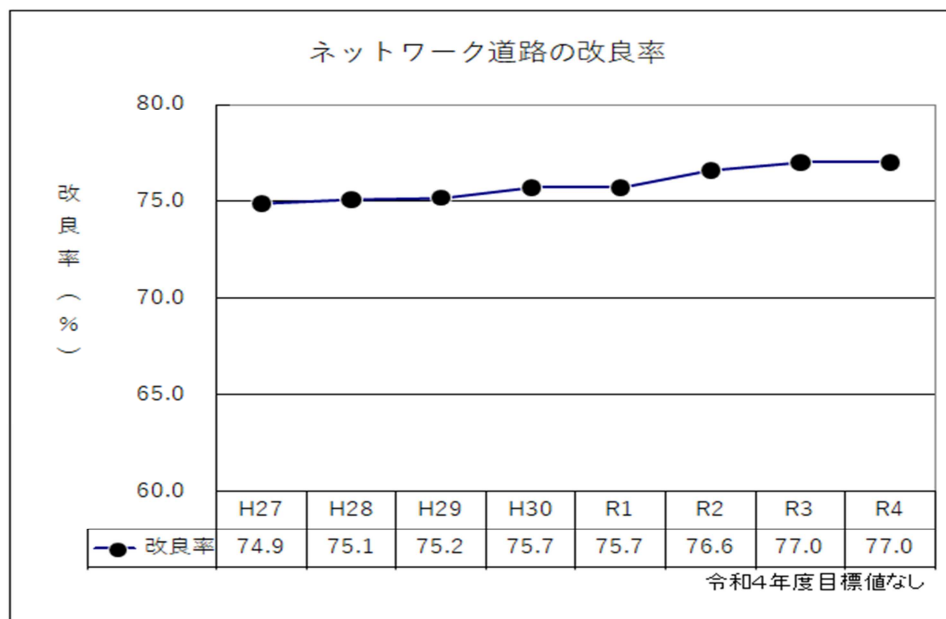
R197、R381、R439、R440、R441、県道窪川船戸線の道路改良率状況

調査方法

高知県道路課に照会

分析・考察

ネットワーク道路の改良率は平成27年度まではゆるやかに増加していたものの、令和3年度から増加することなく77.0%となっている。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

②R197、R381、R439、R440、R441、県道窪川船戸線の道路情報板等の整備状況

項目内容

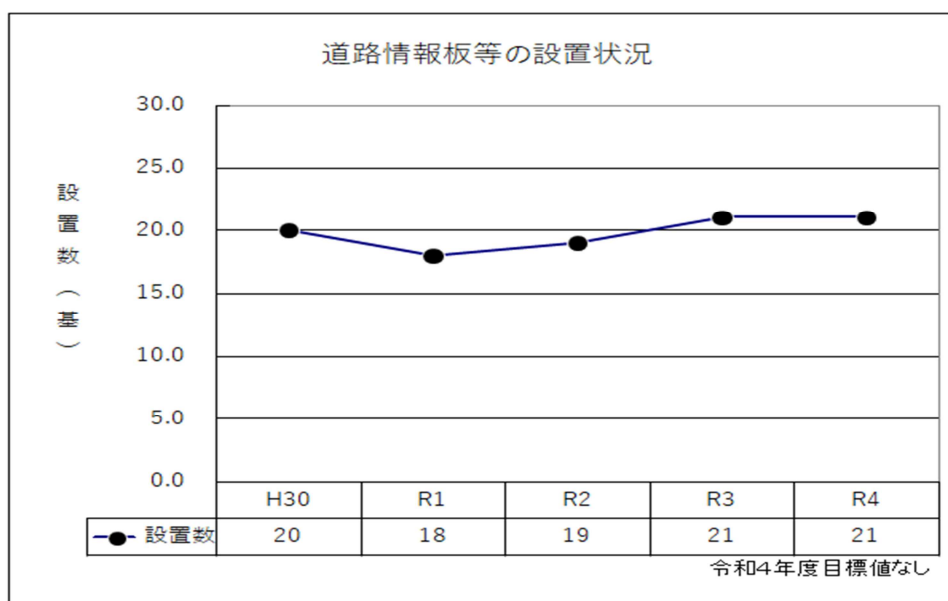
R197、R381、R439、R440、R441、県道窪川船戸線の道路情報板等の設置数

調査方法

高知県道路課に照会

分析・考察

道路情報板等の設置数は令和元年度に2基減少するも、その後3基増加し令和4年度には21基となっている。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値(案)

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

③交通事故の年間発生件数

項目内容

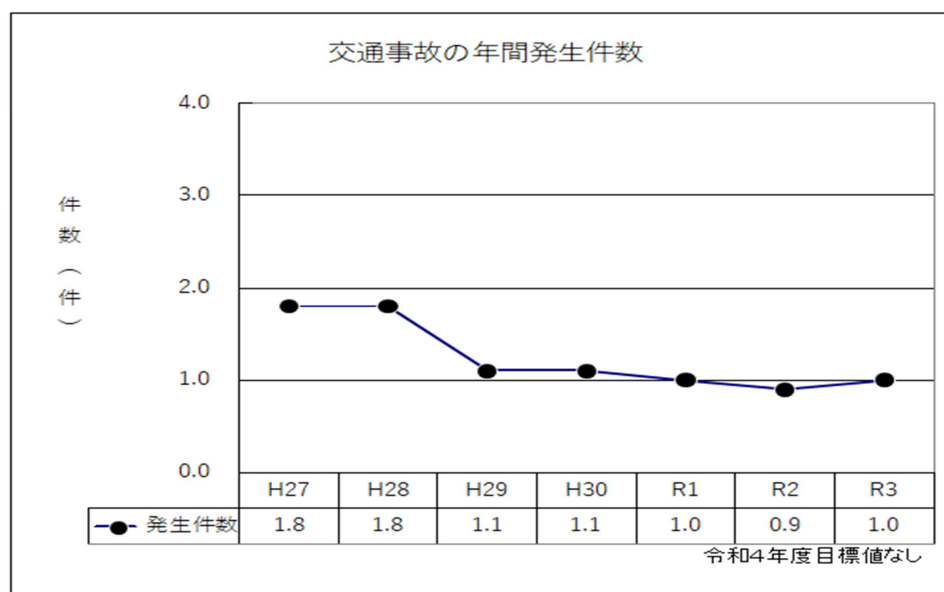
人口 1,000 人当たりの交通事故の年間発生件数

調査方法

高知県統計書、毎年 10 月 1 日現在の推計人口に基づき算出、高知県警察本部に照会（交通事故の概況）

分析・考察

交通事故の年間発生件数は平成 27 年度から平成 28 年度にかけて横ばいだったが、平成 29 年度に減少しその後ほぼ横ばいとなっている。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【22】地元中高卒者の地元就職率

項目内容

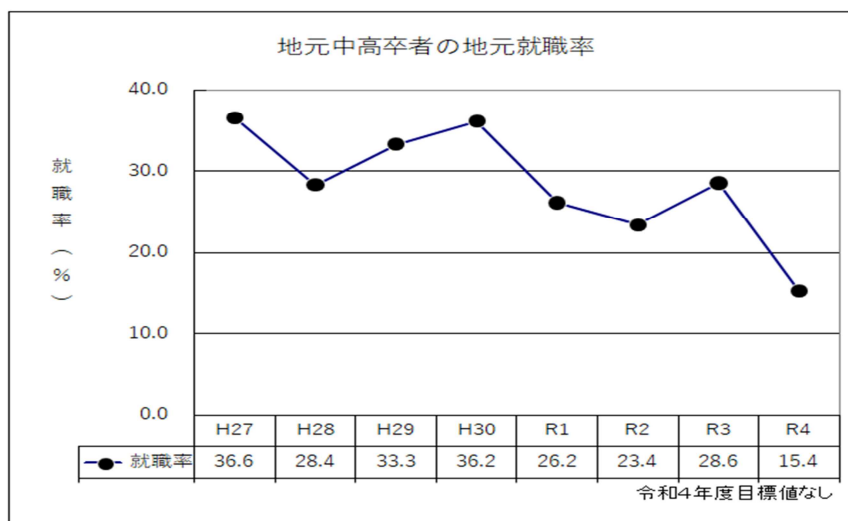
中高校生の地元への就職率

調査方法

流域の中学校、高校に通っていた生徒の就職状況を照会

分析・考察

地元中高卒者の地元就職率は、全体にかけて変動があるが、平成27年度の36.6%をピークに、令和4年度は15.4%に減少した。



項目の見直しについて

中学生の大多数が高校へ進学していることから、今後の調査は『地元高卒者の地元就職率』に変更する。

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【23】子どもの人数

項目内容

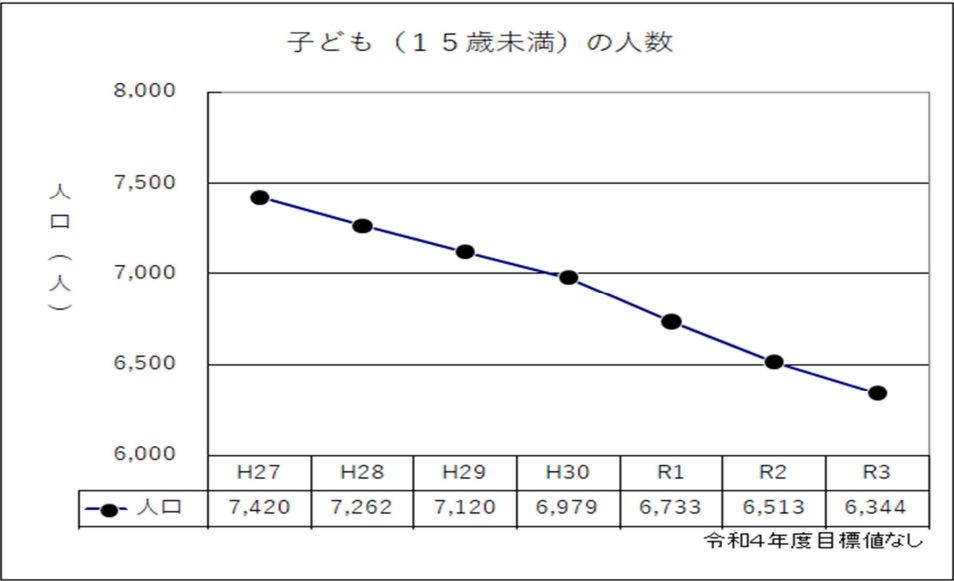
流域市町の15歳未満人口

調査方法

毎年10月1日現在の推計人口

分析・考察

子どもの人数は年々減少しており、平成27年度から令和3年度にかけて1,578人減少している。少子高齢化現象を如実に表した結果となった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

(2) 四万十川が子どもの遊び場として活用されていること

【24】川で遊んだ子どもの割合

項目内容

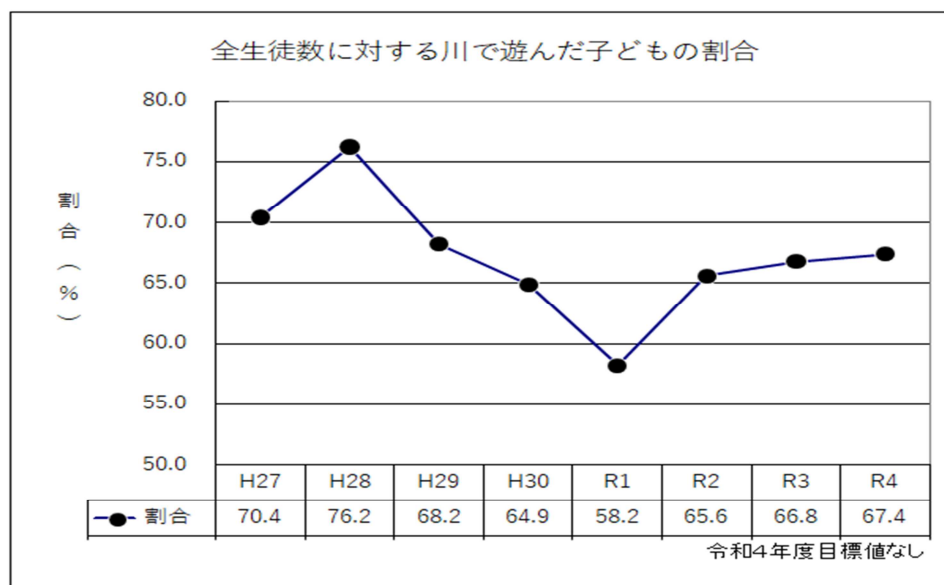
川で遊んだ流域の子ども（小・中学生）の割合

調査方法

流域の小学校、中学校に照会

分析・考察

川で遊んだ流域の子ども（小・中学生）の割合は、平成 27 年度から平成 28 年度にかけて増加したが、令和元年度にかけて減少傾向にあった。その後令和 4 年度にかけて増加し、67.4%となった。平均して 7 割近くの子どものが川で遊んでいる。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【25】カヌーを体験した子どもの割合

項目内容

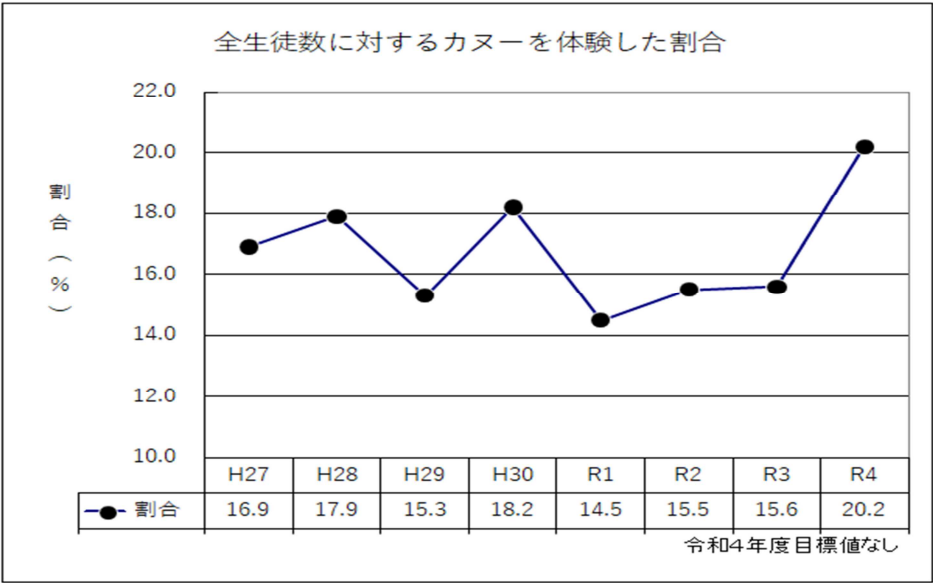
カヌーを体験した子ども（小・中学生）の割合

調査方法

流域の小学校、中学校に照会

分析・考察

カヌー等を体験した子ども（小・中学生）の割合は、年によって変動があり、令和4年度は最高値の20.2%となった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【26】川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合

項目内容

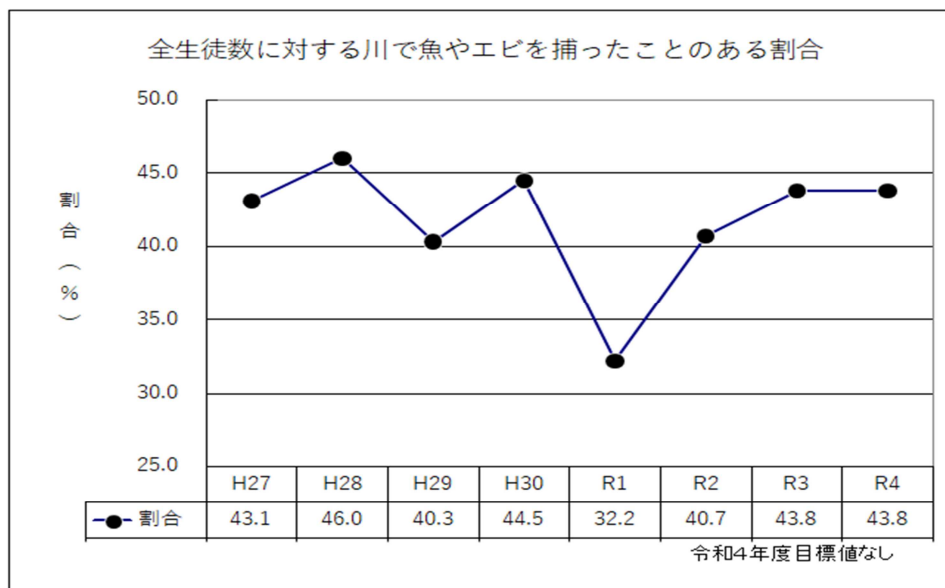
川で魚やエビなどを捕ったことのある子ども（小・中学生）の割合

調査方法

流域の小学校、中学校に照会

分析・考察

川で魚やエビなどを捕ったことのある子ども（小・中学生）の割合は、年によって変動があるが、平均して4割以上の子どもが川で魚やエビなどを捕っている。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【27】子どもが自由に魚を釣れる場所数

項目内容

子どもが自由に魚を釣れる場所数

調査方法

高知県漁業管理課に照会

分析・考察

子どもが自由に魚を釣れる場所数は、平成 14 年度以降全区間となっている。

項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【28】水生生物調査実施校の割合

項目内容

総合的な学習で水生生物調査を実施した流域小中学校の割合

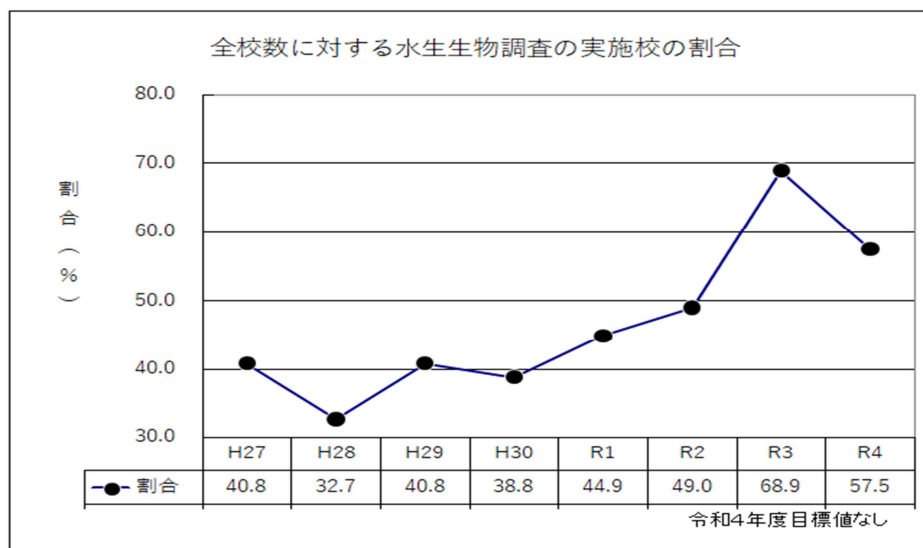
調査方法

流域の小学校、中学校に照会

分析・考察

総合的な学習で水生生物調査を実施した流域小中学校の割合は、全体的に増加傾向にあり、特に令和2年度から令和3年度にかけて19.9%増加した。

川での活動は、天候や学校の年間行事計画の事情により影響を受けると考えられるが、総合的な学習で水生生物調査を授業内容としている学校が多いことがうかがえる。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【29】水質調査実施校の割合

項目内容

総合的な学習で水質調査を実施した流域小中学校の割合

調査方法

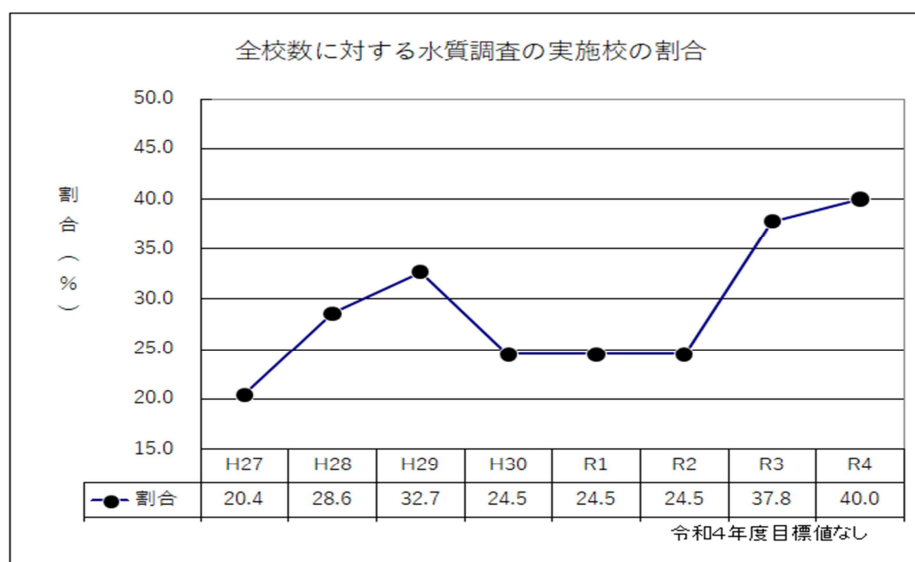
流域の小学校、中学校に照会

分析・考察

総合的な学習で水質調査を実施した流域小中学校の割合は、平成 27 年度から平成 29 年度にかけて増加しているが、平成 30 年度に減少し令和 2 年度まで横ばい状態が継続した。

その後令和 3 年度にかけて大きく増加し、令和 4 年度は 40.0%となった。

川での活動は、天候や学校の年間行事計画の事情により影響を受けると考えられるが、総合的な学習で水質調査を授業内容としている学校が多いことがうかがえる。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【30】自然体験型修学旅行の実施校数

項目内容

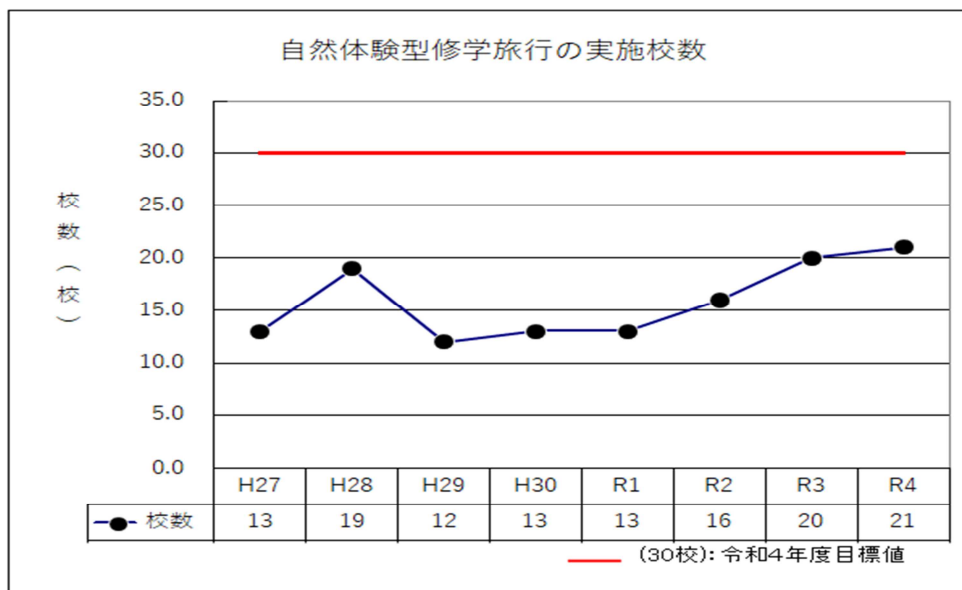
流域で実施された自然体験型修学旅行の実施校数

調査方法

流域市町に照会

分析・考察

自然体験型修学旅行の実施校数は、増加傾向にあるが、各年度を通して目標値を達成していない。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値(案)

少子高齢化などに伴い、将来的にも学校の統廃合が進んでいく可能性を考慮し、目標値を30校から25校に変更する。

(3) 四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること

【31】農家民宿の軒数（単年値）

項目内容

農家民宿の軒数

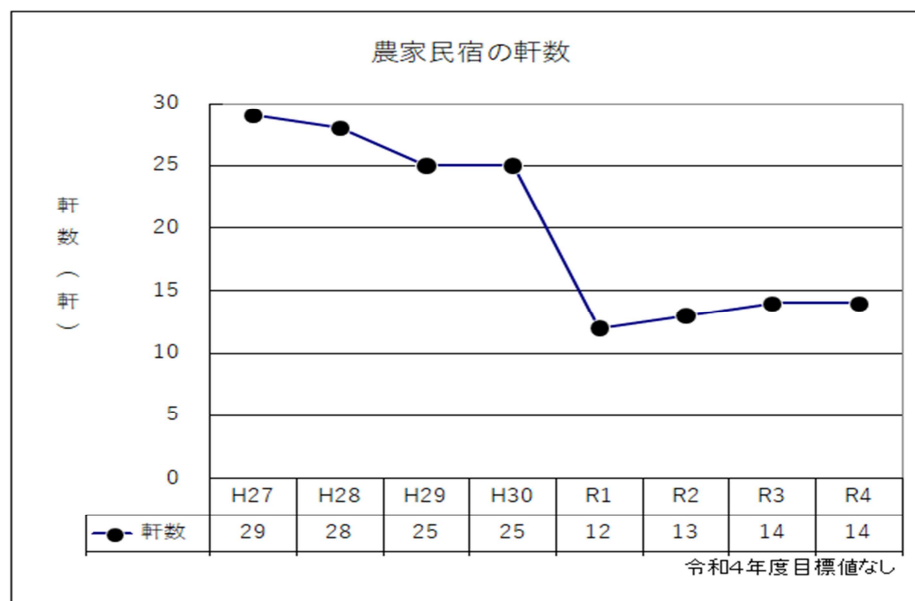
調査方法

高知県地域観光課に照会

分析・考察

農家民宿の軒数は全体的に減少傾向で、特に平成30年度から令和元年度にかけては約半減し12件となっている。その後微増し令和4年度には14件となった。

農家民宿に代わり、最近ではB&Bが増えてきたとの声も聞かれるが、B&Bに関する調査や統計がなく、実態は不明。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【32】四万十ブランド認証の認証件数

項目内容

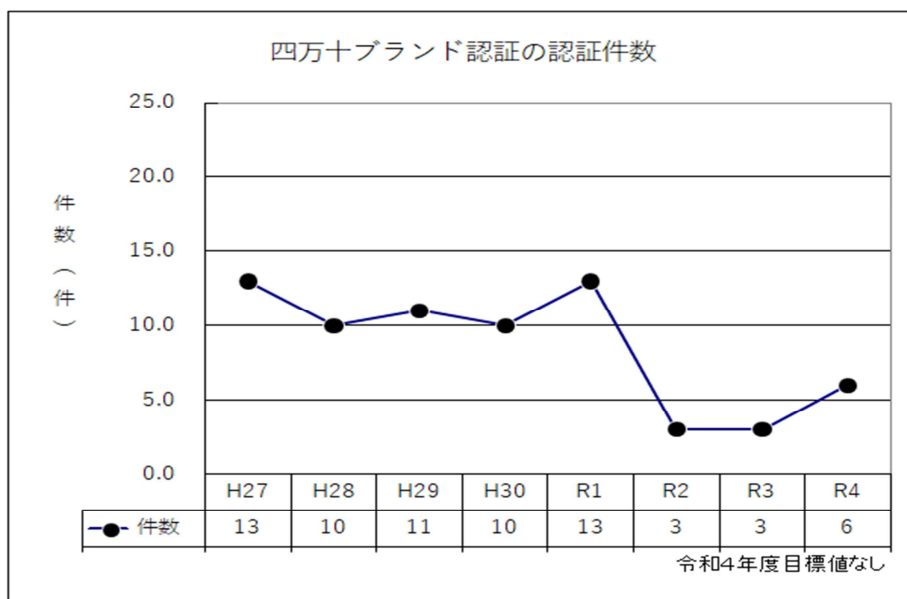
流域の産品などをブランドとして認証する四万十ブランド認証制度の認証件数

調査方法

(公財) 四万十川財団に照会

分析・考察

四万十ブランド認証の認証件数は、年によって変動があるが、令和元年度から令和2年度にかけて10件減少し、その後、令和4年度には6件となった。



項目の見直しについて

(公財) 四万十川財団が「四万十ブランド認証事業」を廃止することから、項目を廃止する。

〈参考〉

「四万十ブランド認証事業」について

本事業は四万十川と関わりのない商品が「四万十川」の名前を使って販売されていた当時の社会状況を鑑み、本物の四万十川産の商品と生産者を守り育てることを目的として開始。

しかし、近年の消費者のトレサビリティーへの意識向上、また地元企業による四万十川ブランドの確立もあって、本事業は一定役割を終えたと判断。

加えて、本事業を活用している事業者からも事業廃止に関して了承を得た。

こうしたことから、令和5年度を目処に終了するという事で理事会で話を進め、令和4年度第2回通常理事会で廃止決定がなされている。

【33】地産の状況（単年度）

①農協直売販売所等における地元農産物の販売額】

項目内容

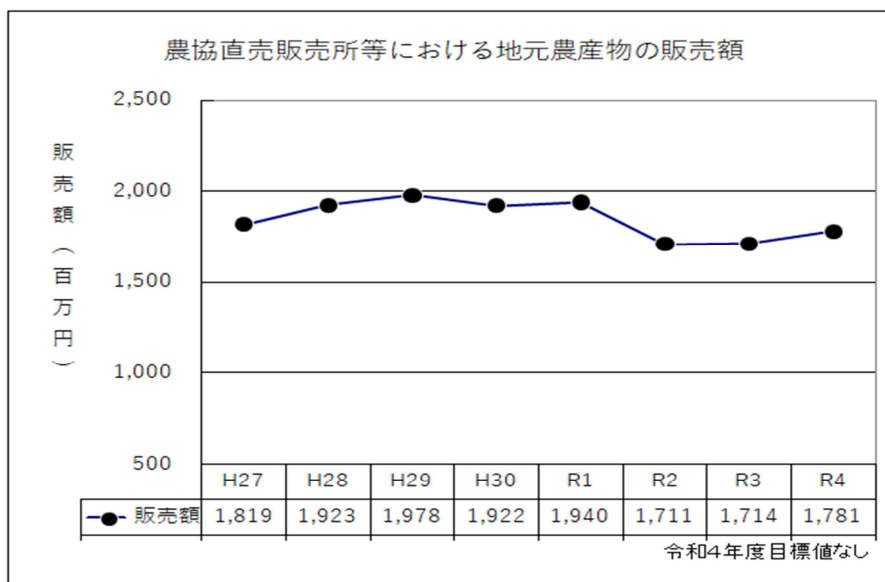
農協直売販売所等における地元農産物の販売額

調査方法

高知県地域農業推進課に照会

分析・考察

農協直売販売所等における地元農産物の販売額は、平成 27 年度から令和元年度にかけてほぼ横ばいになっているが、令和元年度から令和 2 年度にかけて 229 百万円減少し 1,711 百万円となり、令和 4 年度にかけて微増して 1,781 百万円となった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現状どおり目標数値を定めず数値の把握を行う。

②入漁券（日釣券）の販売額

項目内容

入漁券の販売額

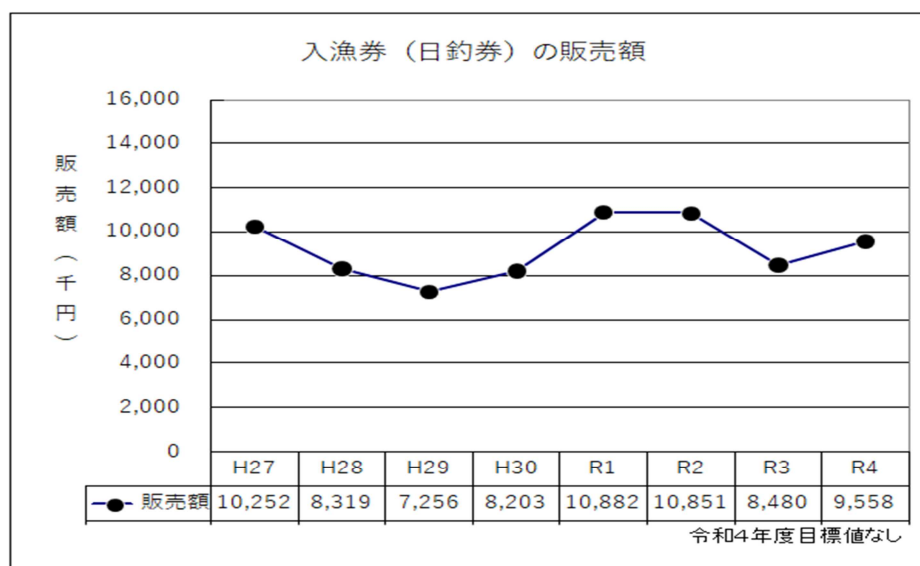
調査方法

四万十川上流淡水漁協、四万十川漁協連合会（各漁協）に照会

分析・考察

入漁券の販売額は平成 27 年度から平成 29 年度にかけて 2,996 千円減少し 7,256 千円になるも、その後令和元年度にかけて 3,626 千円増加し 10,882 千円になった。

しかし、令和 3 年度にかけて 2,402 千円減少し 8,480 千円になるも、令和 4 年度に増加し 9,558 千円になった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現状どおり目標数値を定めず数値の把握を行う。

【34】漁獲量（単年度）

項目内容

アユ、ウナギ、アオノリ及びテナガエビの漁獲量

調査方法

農林水産統計及び高知県統計資料、西部漁協及び四万十市に照会

分析・考察

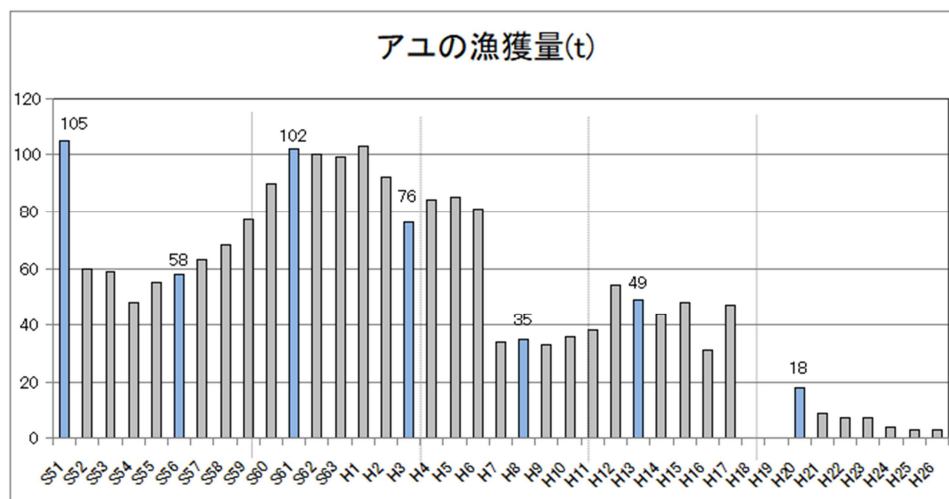
アユの漁獲量は増減を繰り返しているが、ピークの平成 29 年度と令和 4 年度を比較すると 21,919kg 減少している。

ウナギの漁獲量も増減を繰り返しているが、ピークの平成 29 年度と令和 4 年度を比較すると 2,229kg 減少している

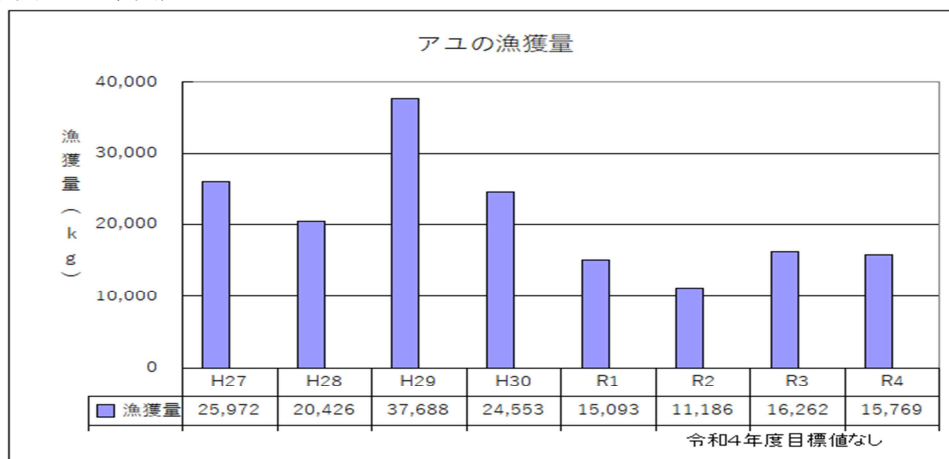
アオノリの収穫量は平成 27 年度と平成 29 年度は 2,500kg 以上あったが、平成 28 年度は 194kg、平成 30 年度は 1 kg、令和元年度以降実績がなかった。

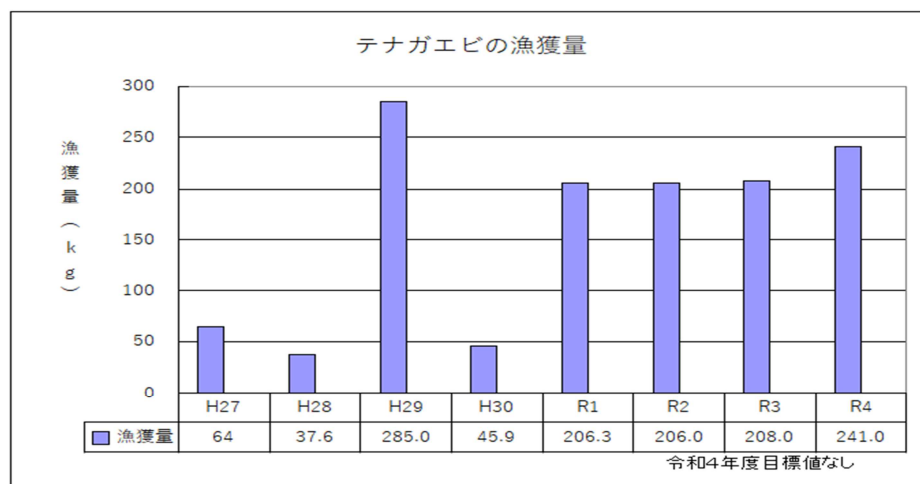
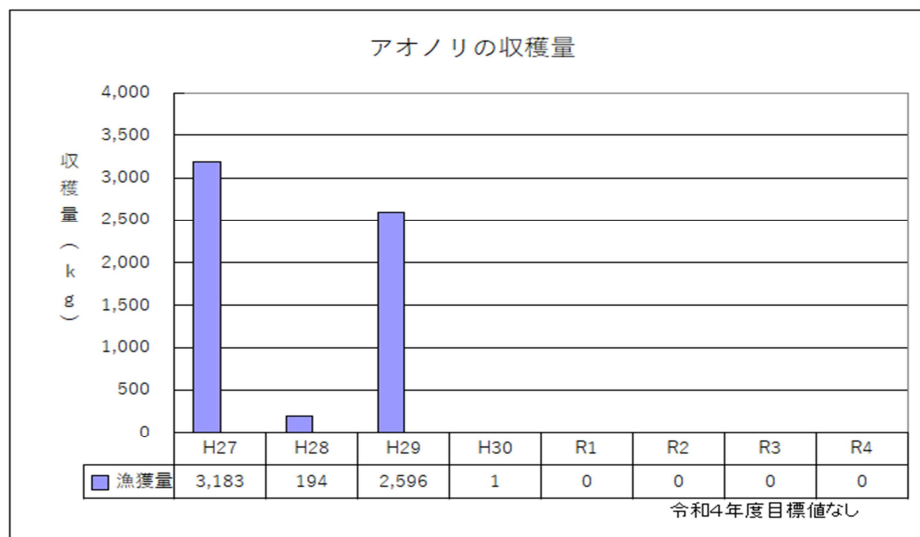
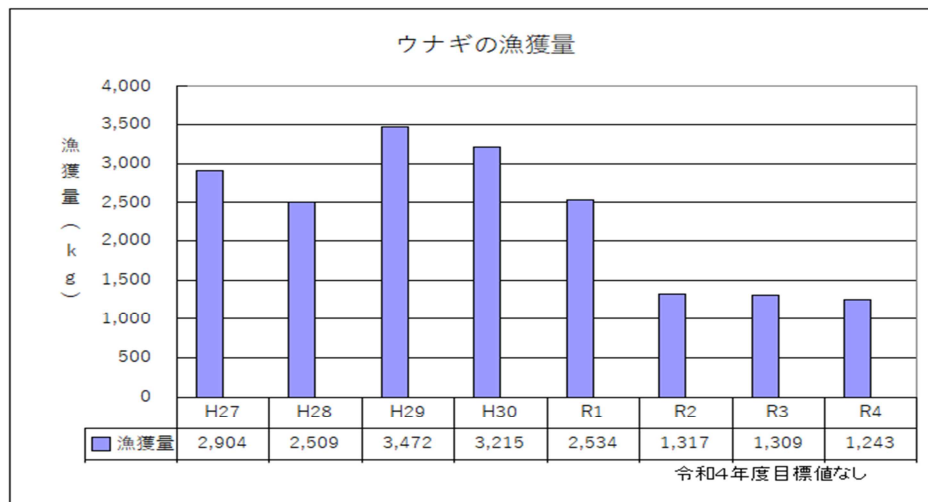
テナガエビの漁獲量は、平成 27 年度、平成 28 年度、平成 30 年度を除き、200kg を超えている。特に平成 29 年度の漁獲量は 285.0kg となった。

(S51 年度～H26 年度)



(H27 年度～R4 年度)





項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現状どおり目標数値を定めず数値の把握を行う。

【35】公共事業における木材の利用状況

①県有施設の木造化及び内装の木質化率

項目内容

新規公共建築物施設（国、県、市町村）における木造化率

県有施設の新規公共建築物施設における木造木質化率

調査方法

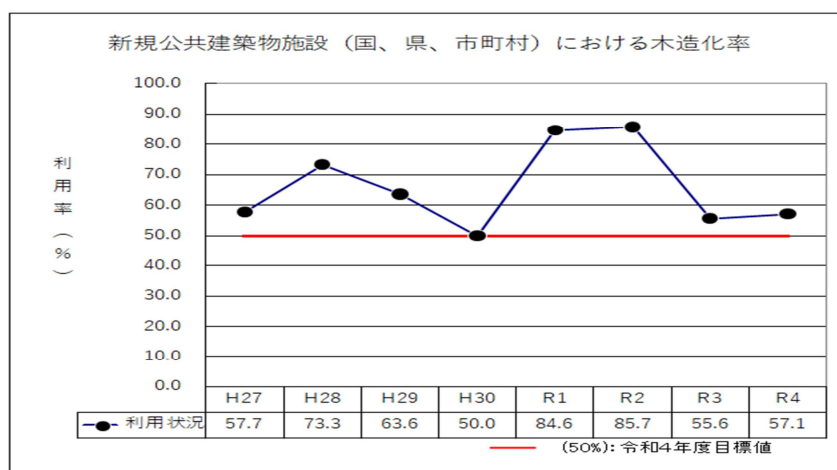
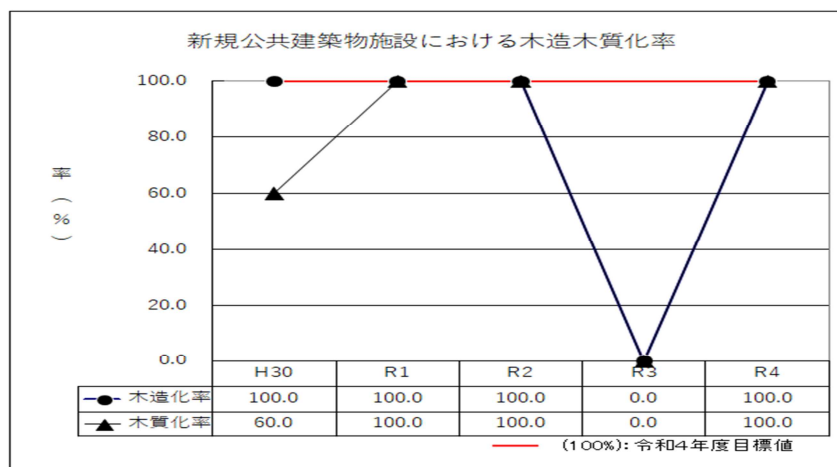
新規公共建築物施設（国、県、市町村）における木造化率：高知県建築指導課に照会

県有施設の新規公共建築物施設における木造木質化率：高知県木材産業振興課に照会

分析・考察

新規公共建築物施設（国、県、市町村）における木造化率は、全体を通して目標値を達成しており、特に令和2年度は目標値より35.7%高い85.7%となっている。

県有施設の新規公共施設における木造木質化率は、平成30年度の木質化率は目標値に及ばなかったが、その後は目標値を達成している。なお、令和3年度は該当する施設なし。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、新規公共建築物施設（国、県、市町村）における木造化率は100%、県有施設の新規公共建築施設における木造木質化率は50%とする。

②公共土木工事での木材利用量

項目内容

公共土木工事での木材利用量

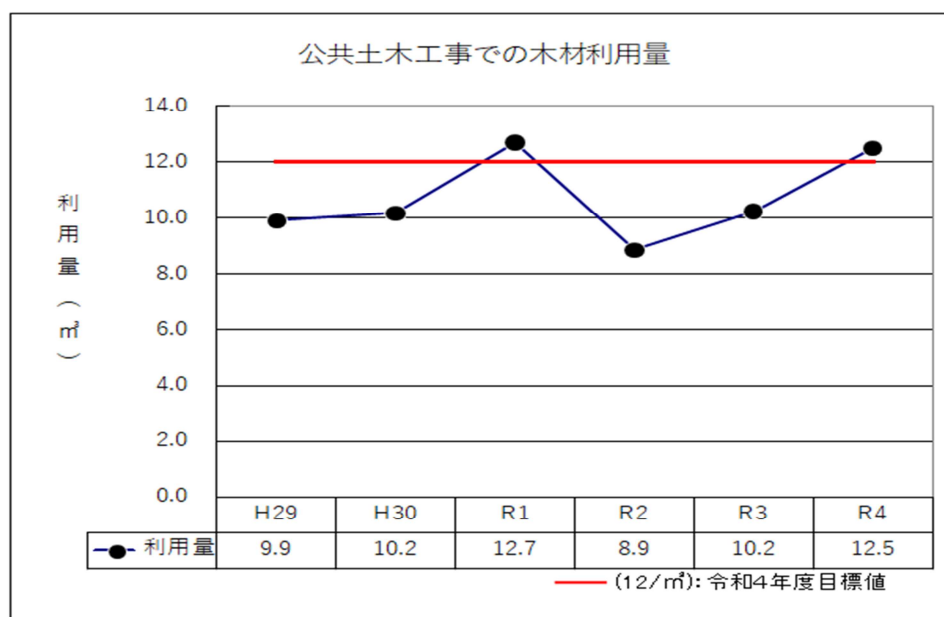
調査方法

高知県木材産業振興課に照会

分析・考察

公共土木工事での木材利用量は、平成 29 年度から令和元年度にかけて増加し、令和元年度に目標値を達成したが、令和 2 年度から令和 3 年度にかけては目標値を達成しなかった。

その後令和 4 年度は目標値を達成し、12.5 m³/億円となった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、12m³/億円とする。

- (4) 地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと

【36】環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数（累計値）

項目内容

環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数

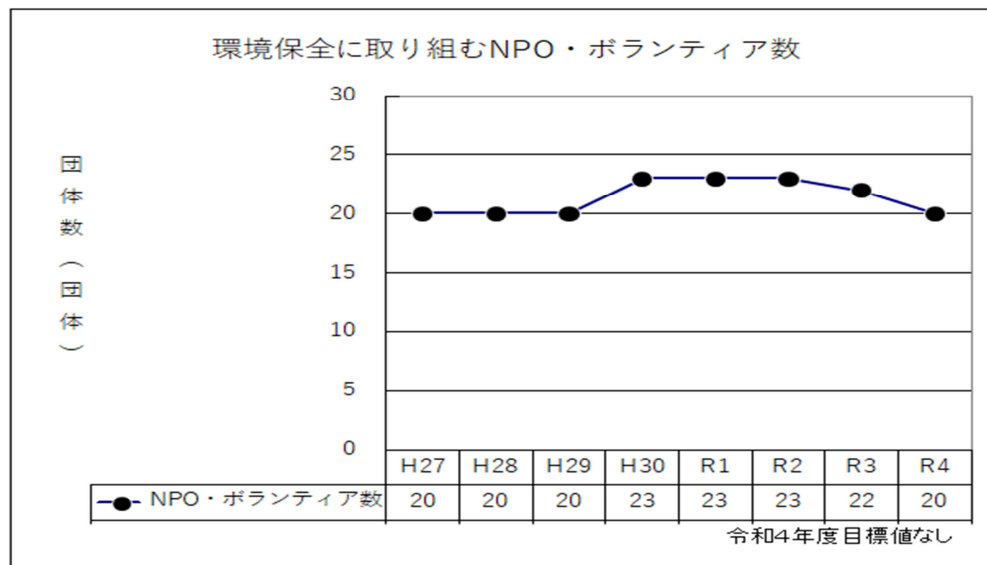
調査方法

森林の保全ボランティア：高知県林業環境政策課

その他環境保全関係：高知県県民生活課に照会

分析・考察

環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数は、平成27年度から平成29年度にかけて横ばいで推移し、平成30年度には3団体増加したが、令和3年度に1団体減少、令和4年度に2団体減少し20団体となった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【37】グリーンツーリズムの交流人口

項目内容

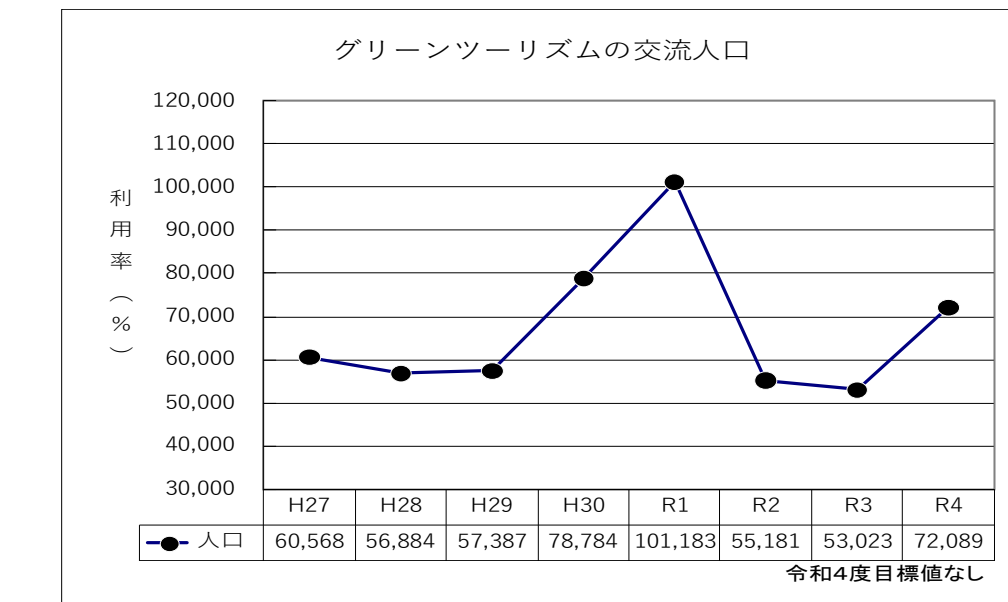
四万十川すみずみツーリズム協議会員の農家民宿等の宿泊利用者数の合計

調査方法

(公財) 四万十川財団に照会

分析・考察

グリーンツーリズムの交流人口は、平成 30 年度から令和元年度にかけてに大きな増加が見られた。各施設の利用者数のうち、カヌー館利用者数が全体に占めるウェイトが大きく、カヌー館利用者の減少が、全体の減少に影響している。令和 2 年度、令和 3 年度の減少は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が考えられる。



項目の見直しについて

特になし

平成 9 年度目標値 (案)

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【38】環境活動リーダー・インタープリター等の人数

項目内容

生物多様性こうち戦略推進リーダー（四万十川流域に限定）の登録者数、（公財）四万十川財団の四万十リバーマスター数の合計。

調査方法

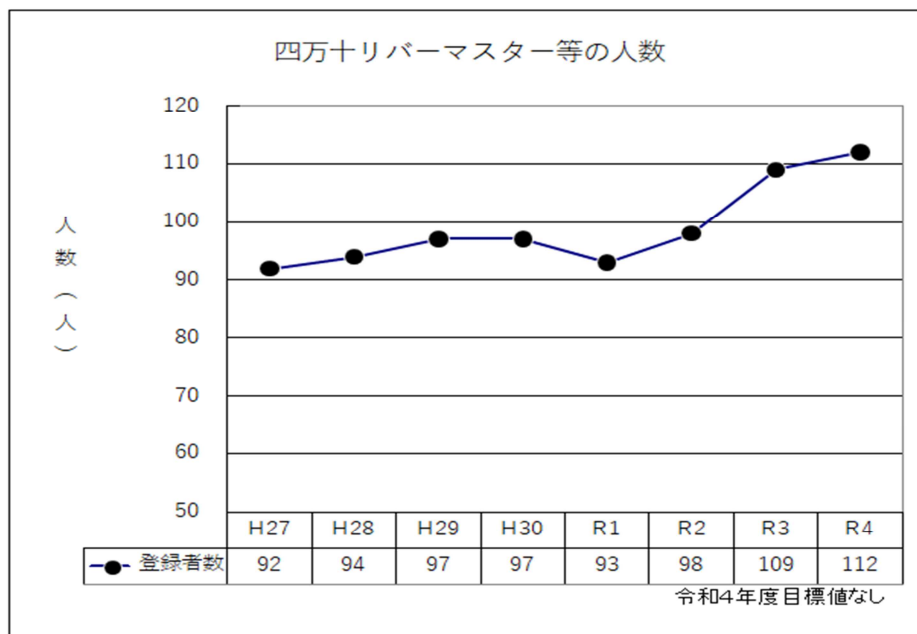
生物多様性こうち戦略推進リーダー：高知県自然共生課

四万十リバーマスター：（公財）四万十川財団に照会

分析・考察

生物多様性こうち戦略推進リーダー（四万十川流域に限定）の登録者数、（公財）四万十川財団の四万十リバーマスターの人数は90人以上、特に令和2年度から上昇し、平成27年度と令和4年度の人数を比較すると20人増加の112人となった。

なお、四万十川流域の生物多様性こうち戦略推進リーダーの登録者数は6人。



項目の見直しについて

環境活動リーダー及びインタープリターは講座が終了し、現在情報を収集しているのは生物多様性こうち戦略推進リーダーの流域内における登録者数及び四万十リバーマスターの登録者数であるため、項目名称を『四万十リバーマスター等の人数』に変更する。

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【39】交流人口の状況

①四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客

項目内容

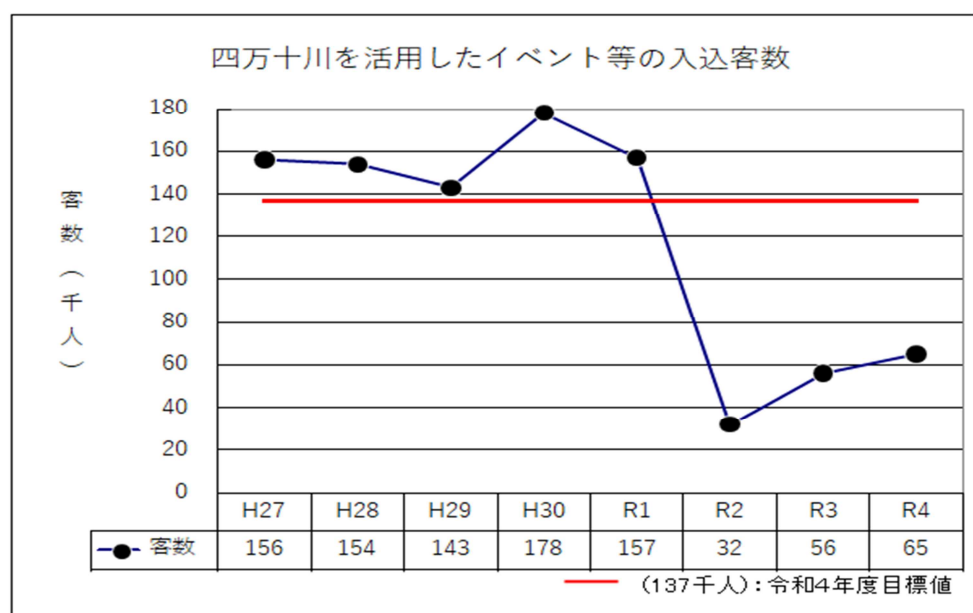
四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客数

調査方法

流域市町に照会

分析・考察

四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客数は、平成27年度から令和元年度にかけて目標値を達成しているが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント等が中止となり、目標値を達成することができなかった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、137千人とする。

②流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数

項目内容

流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数

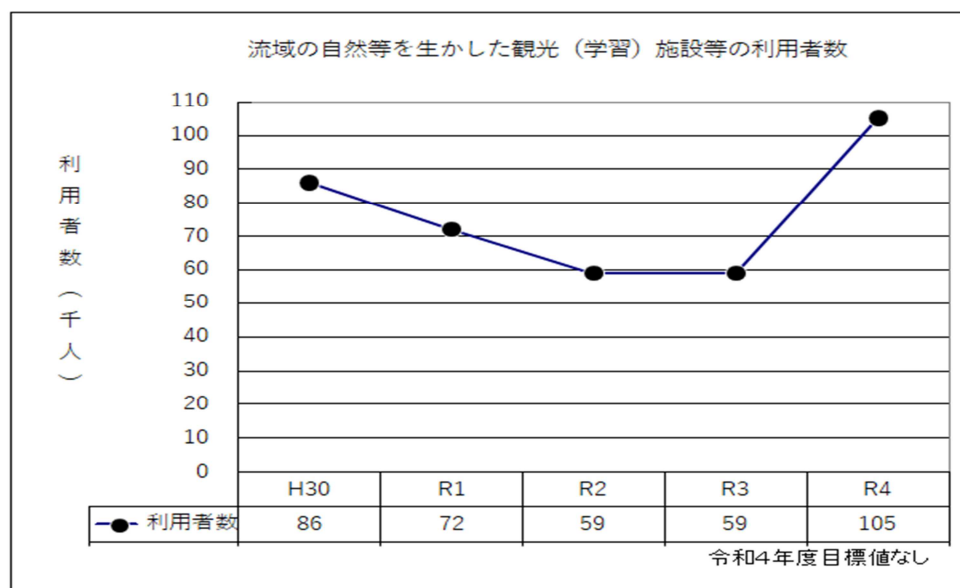
調査方法

流域市町に照会

分析・考察

流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数は、平成 30 年度以降減少傾向が続いていたが、令和 4 年度は令和 3 年度のおよそ倍の 105 千人に増加した。

これは天狗高原カルスト学習館がリニューアルオープンしたことなどにより利用者数が急増したことの影響が大きい。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

③流域の道の駅等の利用者数

項目内容

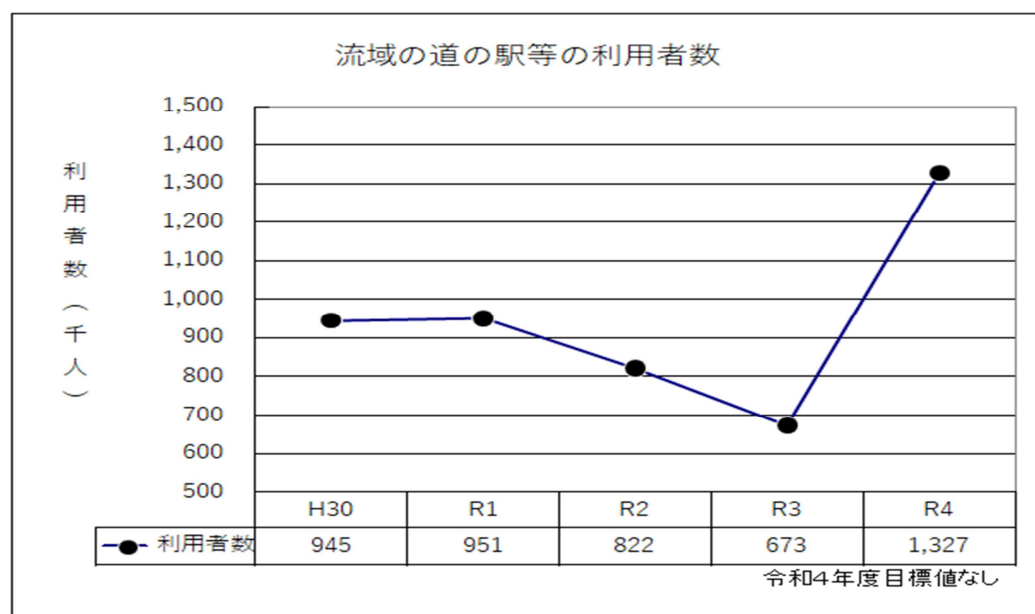
流域の道の駅等の利用者数

調査方法

流域市町に照会

分析・考察

流域の道の駅等の利用者数は平成 30 年度から令和元年度にかけてほぼ横ばいだったが、令和 2 年度以降は新型コロナウイルス感染拡大により行動自粛の影響で利用者数が激減した。しかし令和 4 年度は令和 3 年度のおよそ倍の 1,327 千人に増加した。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値 (案)

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【40】流域の人口

①流域の人口

項目内容

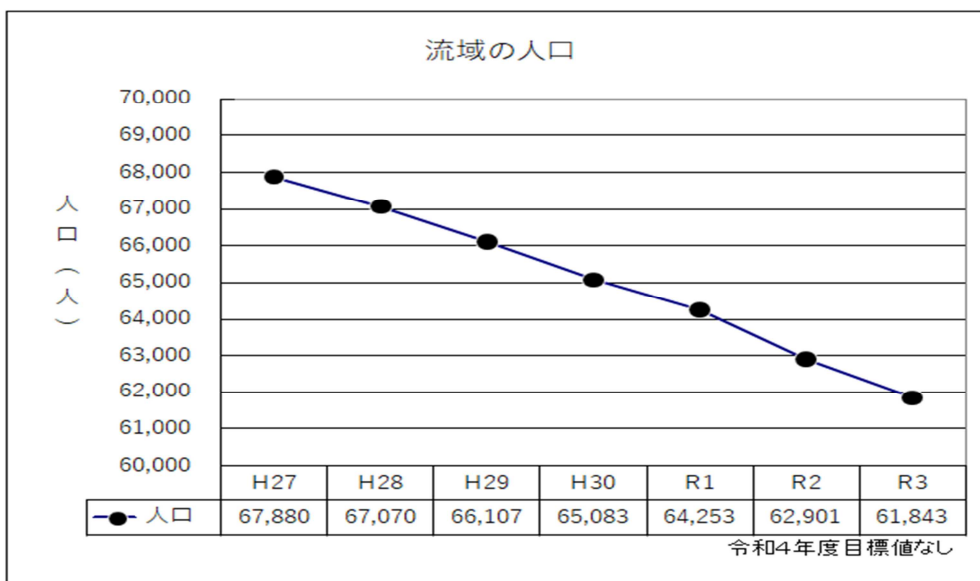
流域市町の推計人口

調査方法

高知県人口移動調査（現在推計人口）、市町村別人口と世帯より 毎年10月1日現在の推計人口

分析・考察

流域の人口は平成27年度から令和3年度まで減少を続けており、令和3年度は平成27年度より6,037人減少した。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

②県外からの移住者数

項目内容

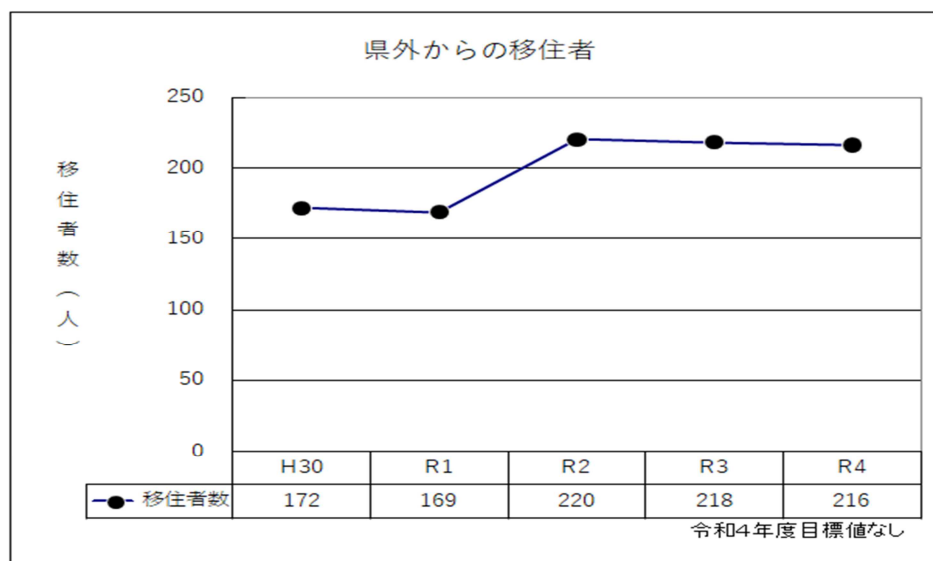
県外から流域市町への移住者（Iターン、Uターン）数

調査方法

高知県移住促進課に照会

分析・考察

平成30年度から令和元年度にかけてはほぼ横ばいで推移し、令和2年度に51人増加している。その後はほぼ横ばいの状態が続いている。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

(5) 文化・歴史を保全活用していること

【41】伝統祭事の実施状況

【神楽、花取踊り、大文字の送り火などの祭事の実施数】

項目内容

神楽、花取踊り、大文字の送り火などの祭事の実施数

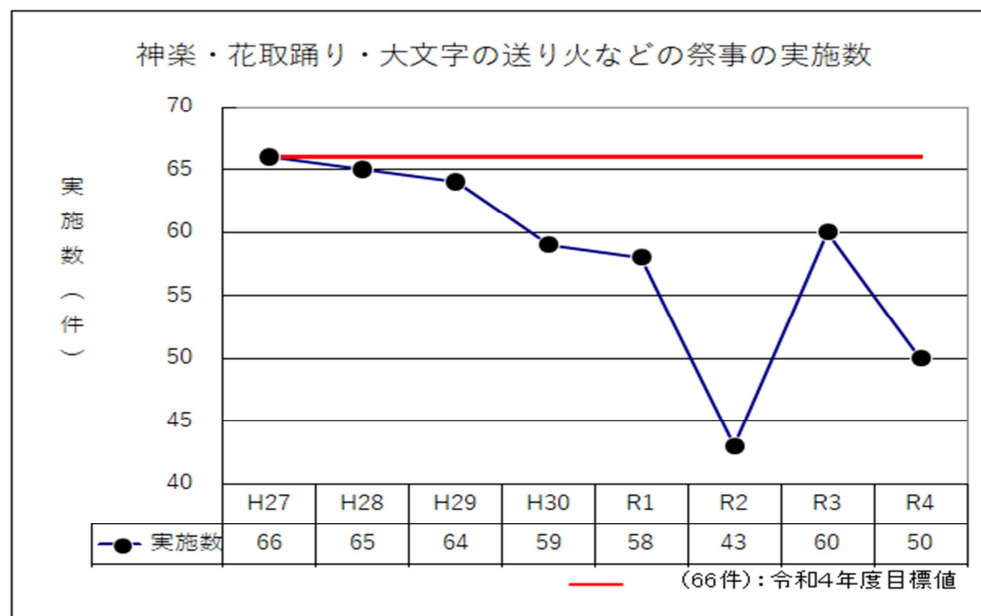
調査方法

流域市町照会

分析・考察

神楽、花取踊り、大文字の送り火などの祭事の実施数は、平成 27 年度に目標値を達成したが、平成 28 年度以降実施数が減少し目標値を達成できていない。

伝統祭事を運営する側の人数や参加者が減少しており、伝統祭事の保存・継承が大きな課題と言える。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値(案)

現行どおり、66 件とする。

【42】伝統漁法の実施状況

①伝統漁法の許可件数（実績件数）

項目内容

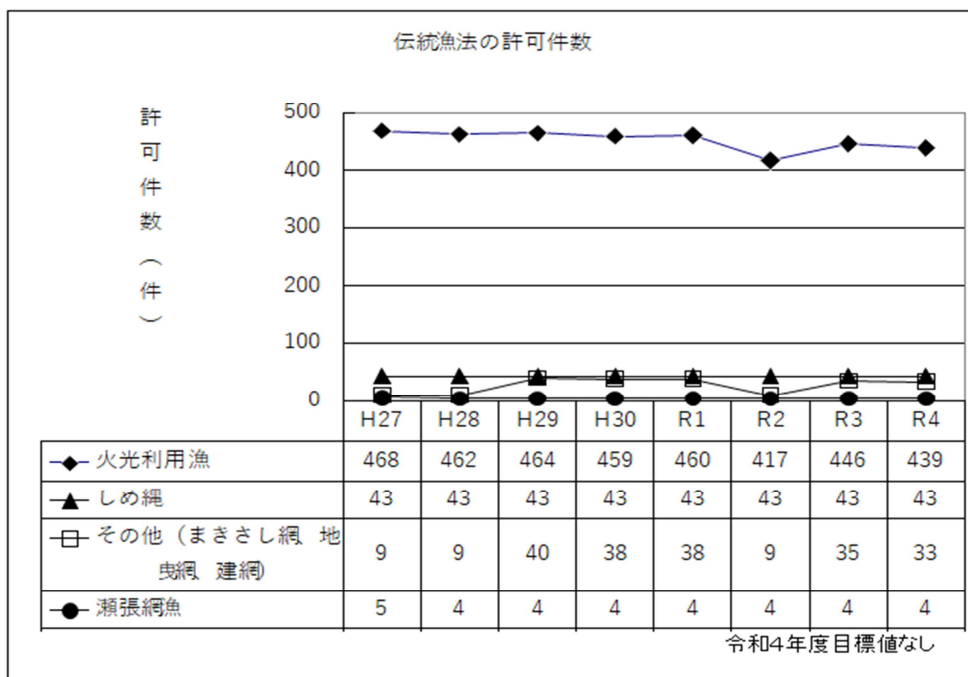
流域漁協における漁法の許可件数（実績件数）

調査方法

四万十川上流淡水漁協、四万十川漁協連合会に照会

分析・考察

伝統漁法の実施件数は、火光利用漁（火振り漁）、しめ縄漁及び瀬張網漁については大きな変化はないが、その他の漁法が年によって変動がある。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

②舟大工の人数

項目内容

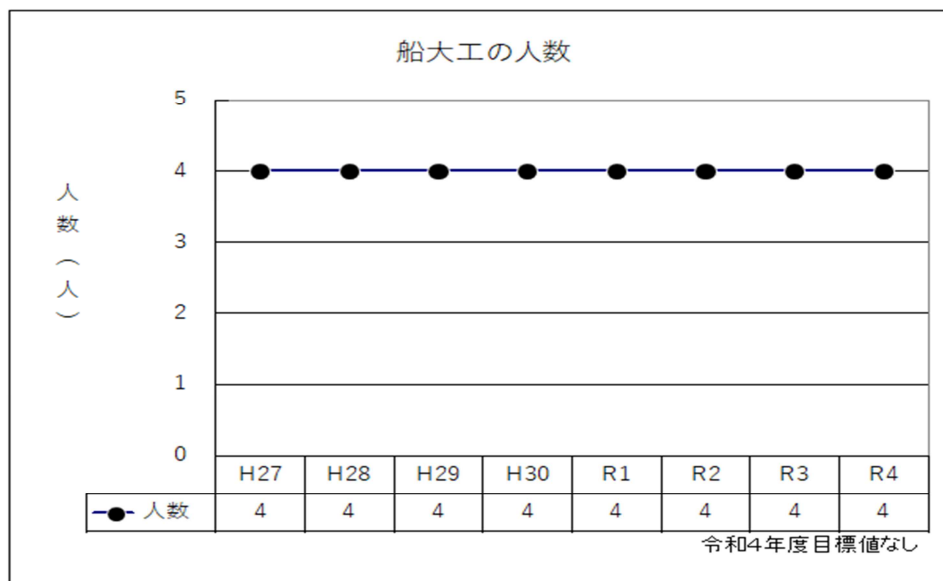
流域漁協が把握している舟大工の人数

調査方法

四万十川上流淡水漁協、四万十川漁協連合会に照会

分析・考察

舟大工の人数は平成 27 年度から人数の変動はない。今後、船大工の高齢化に伴い人数の減少が予測され、伝統技術の継承、後継者の確保が大きな課題と言える。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

③川漁師の人数

項目内容

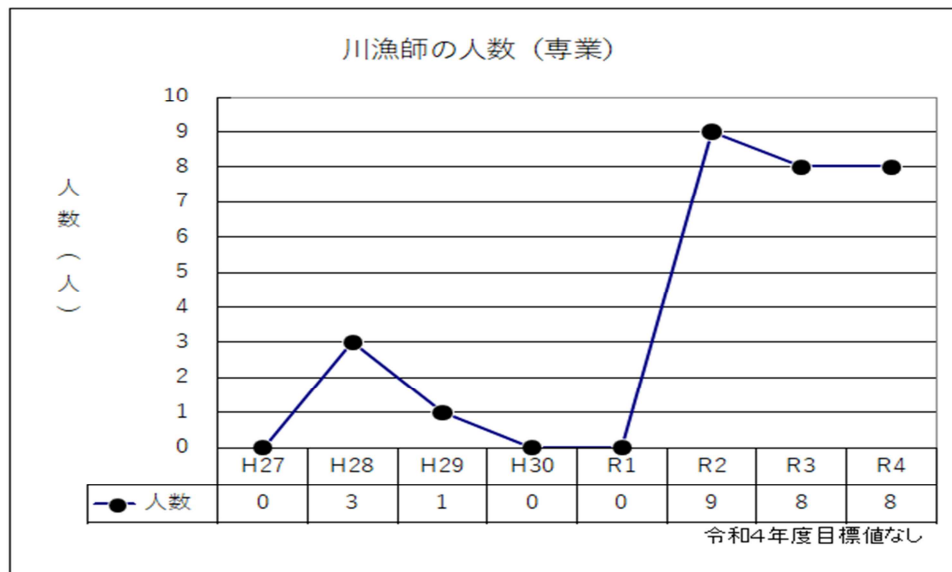
流域漁協が把握している専業川漁師の人数

調査方法

四万十川上流淡水漁協、四万十川漁協連合会に照会

分析・考察

川漁師の人数は平成 27 年度から平成 28 年度にかけて 3 人増加したが、平成 30 年度に再び 0 人になった。その後令和 2 年度に 9 人に増加し、令和 4 年度には 1 名減少し 8 人となった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【43】博物館・資料館の入場者数

項目内容

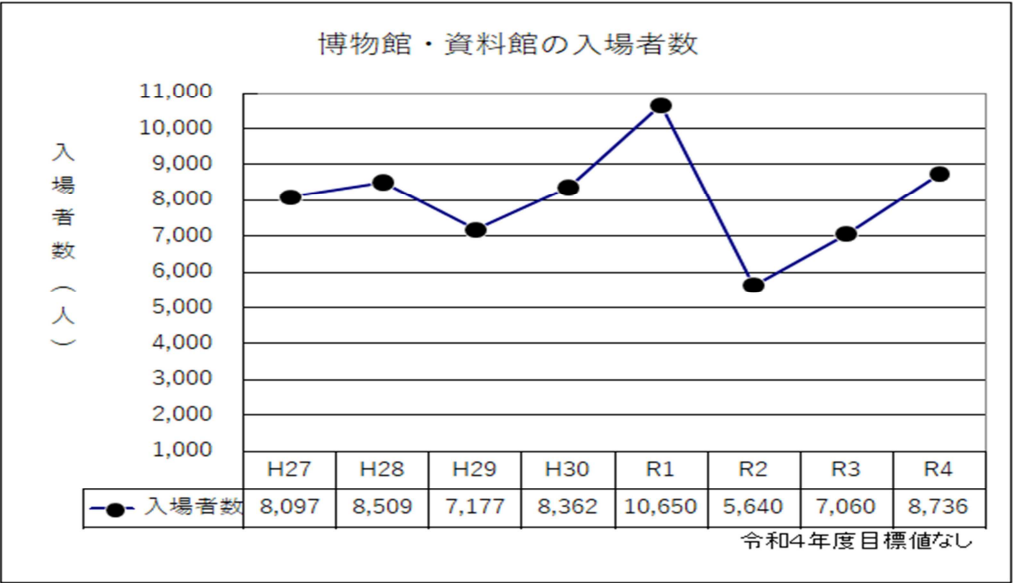
四万十市幡多郷土資料館、梶原町立歴史民俗資料館の入場者数

調査方法

四万十市、梶原町に照会

分析・考察

博物館・資料館の入場者数は、平成 29 年度に減少するも、令和元年度にかけて大きく増加し 10,650 人となった。しかし、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で入場者数は激減するも徐々に回復。令和 4 年度にかけて 8,736 人に増加した。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【44】シンボルの伝統家屋等

項目内容

梶原町、東津野村、大正町、十和村の茶堂のか所数（町指定民俗・有形民俗文化財）

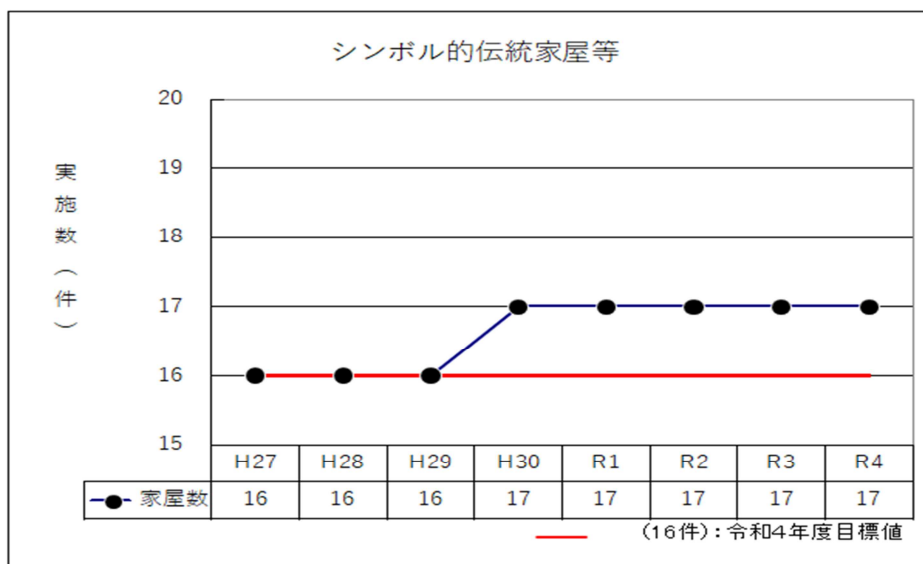
調査方法

流域市町に照会

分析・考察

シンボルの伝統家屋数は平成 27 年度以降横ばい状態が続いていたが、平成 30 年度に 1 件増加して 17 件となった。

現在は文化財としての茶堂が維持されているものの、中長期的視野でみると今後の修繕や維持管理については人的・財政的側面からも課題があり、文化財の地域における活用や維持・保全のあり方については、個別に地域単位で検討していく必要がある。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現在のシンボルの家屋を後生に残すため、目標値を 17 件に変更する。

【45】適正に管理保存された沈下橋数

項目内容

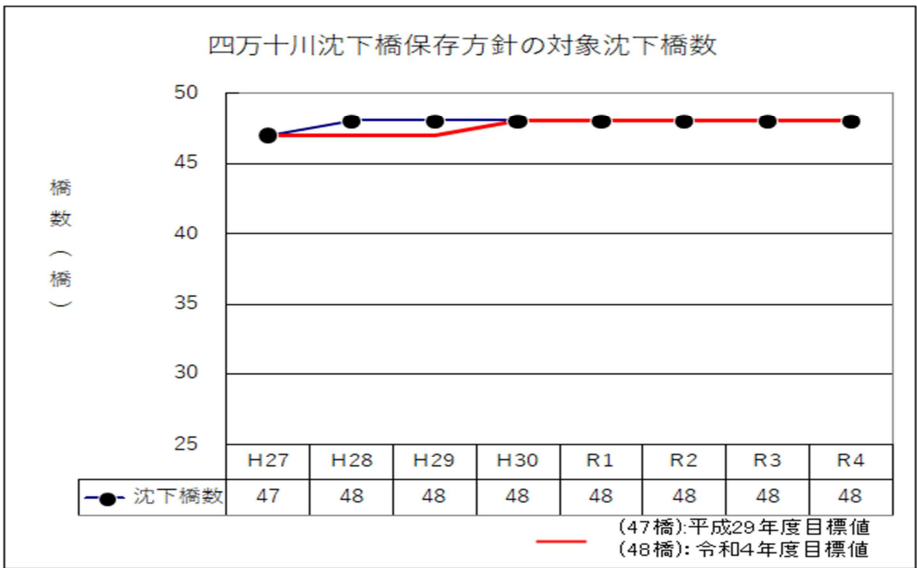
四万十川沈下橋保存方針の対象沈下橋数

調査方法

高知県自然共生課調べ

分析・考察

適正に管理保存された沈下橋数は 47 橋を保っていたが、平成 28 年度に 1 橋（若井沈下橋）増えて 48 橋となった。それに併せて令和 4 年度目標値を 47 橋から 48 橋に変更し、現在まで目標値を達成してる。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、48 橋とする。

【46】 伝統漁具の保存・継承状況

項目内容

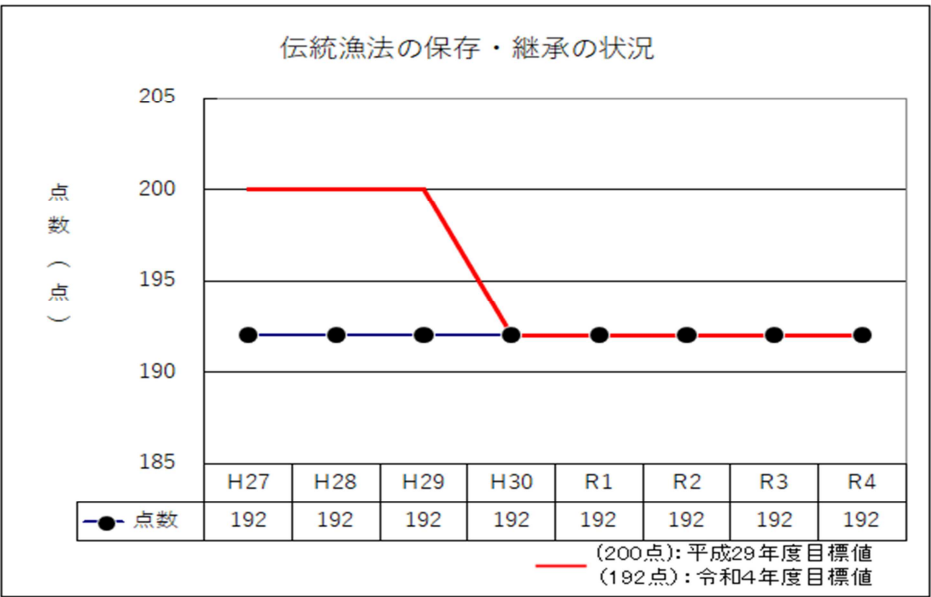
四万十川流域の漁具の収集、保存状況

調査方法

高知県歴史民俗資料館に照会

分析・考察

伝統漁法の漁具の収集・保存点数は平成 27 年度以降横ばいとなっている。令和 4 年度目標値を 200 点から 192 点に変更し現在まで目標値を達成している。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現状どおり、192 点とする。

【47】有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数

項目内容

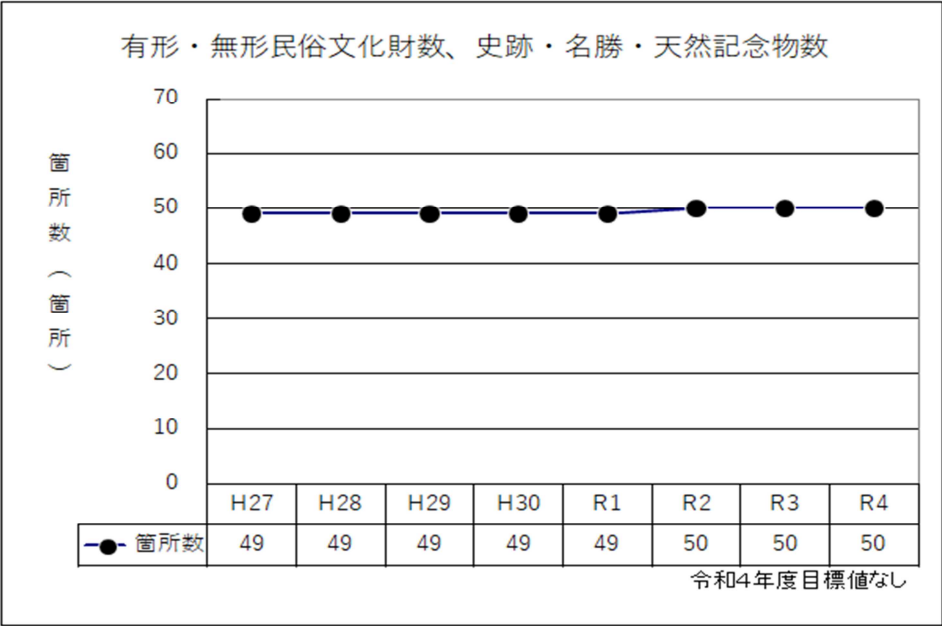
国県指定の箇所数

調査方法

自然共生課調べ（高知県統計書）

分析・考察

有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数は、令和2年度に間崎の枕状溶岩（四万十市間崎）が文化財に指定され1件増加した。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【48】重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数

項目内容

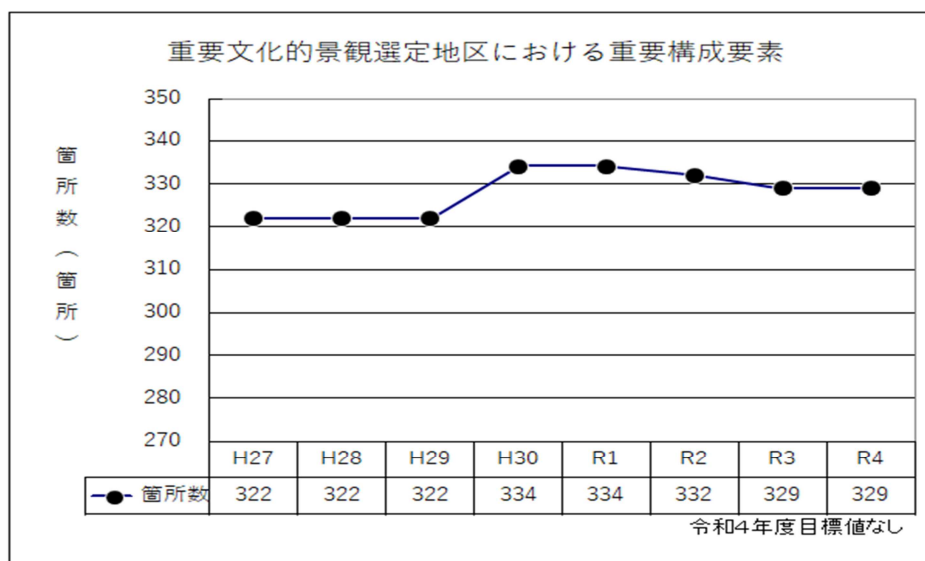
四万十川流域の文化的景観選定地区内において、重要構成要素として位置付けられている箇所数

調査方法

高知県文化財課に照会

分析・考察

重要文化的景観選定地区における重要構成要素箇所数は、平成30年度に12件増加し334件となったが、令和4年度には5件減少し329件となった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【49】文化財等の活用状況

項目内容

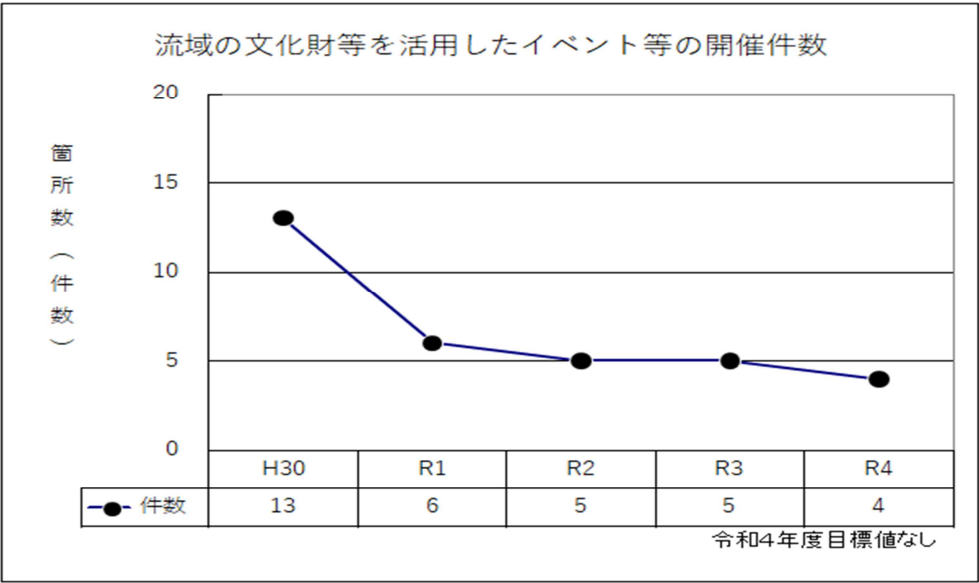
流域の文化財等を活用したイベント等の開催件数

調査方法

流域市町に照会。市町が把握可能な件数とする。

分析・考察

流域の文化財等を活用したイベント等の開催件数は平成 30 年度から令和元年度にかけて半減し、6 件となった。その後はほぼ横ばい状態が続いた。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

(6) 環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること

【50】エコカー（低公害車）の保有台数

項目内容

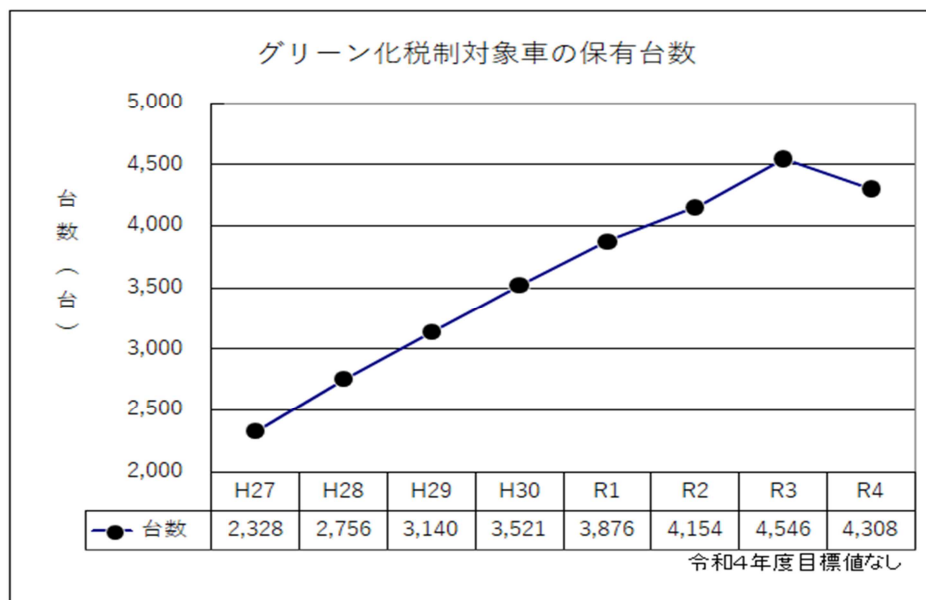
グリーン化税制対象車（低公害車のみ）の保有台数

調査方法

高知県税務課に照会

分析・考察

エコカー（低公害車）の保有台数は、平成 27 年度から令和 4 年度までに 1,980 台増加した。販売されている車全体に占めるグリーン化税制対象車自体が増えていることに加え、燃料代の高騰により低燃費車を選ぶ傾向が高まっていることが要因とみられる。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【51】 ゴミの排出状況

①流域住民1人当たりの1日のゴミの量

項目内容

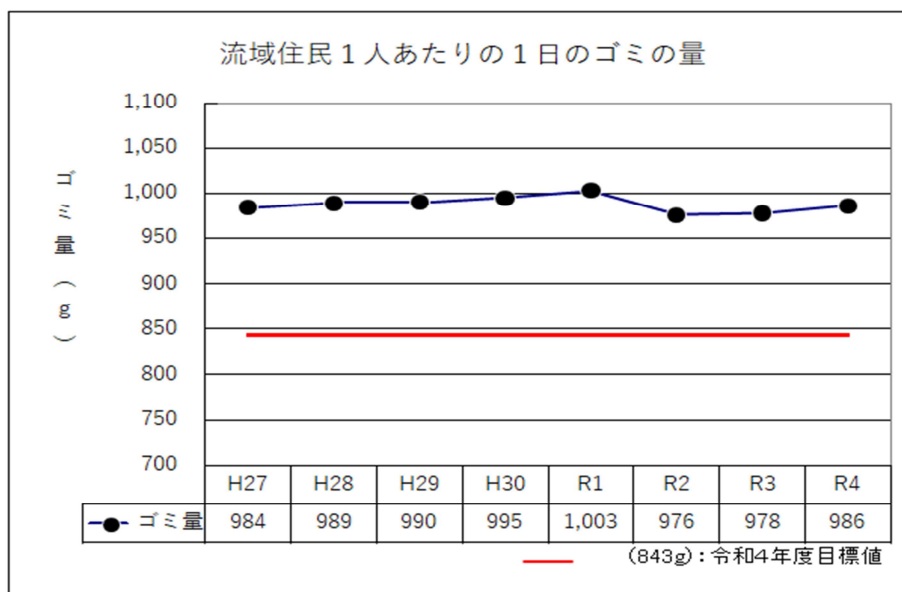
年間総排出量を流域住民基本台帳による人口で割り、さらに日数で割った値

調査方法

高知県環境対策課に照会

分析・考察

流域住民1人当たりの1日のゴミの量は、平成27年度から令和4年度にかけてほぼ横ばい状態が続き、目標値を達成することができなかった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値(案)

平成30年度から令和4年度までの5年間の平均量987gの10%削減を目指し、888gに変更する。

②ゴミのリサイクル率

項目内容

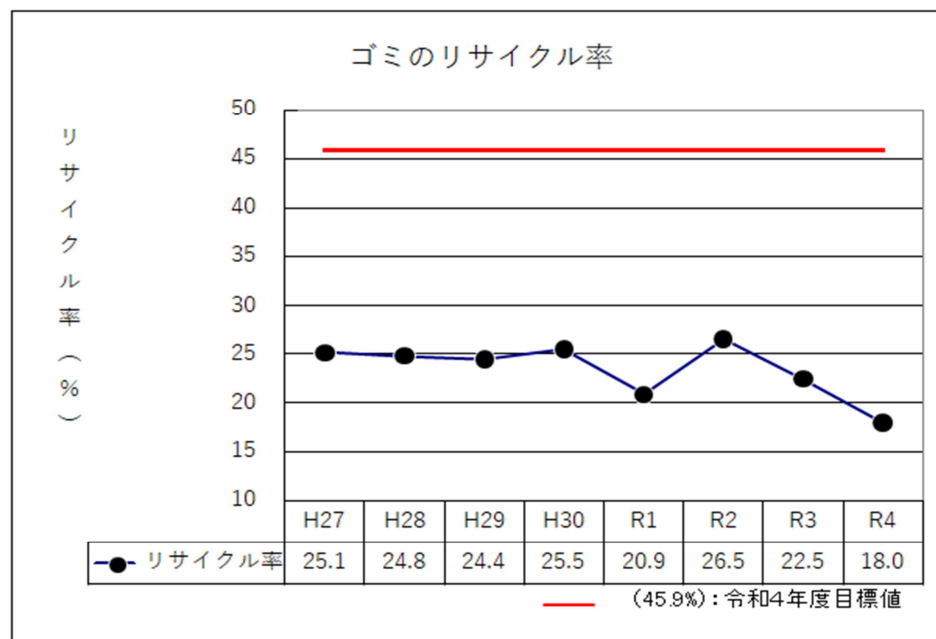
$(\text{資源化量} + \text{集団回収量}) / (\text{ゴミ総処理量} + \text{集団回収量}) * 100$

調査方法

高知県環境対策課に照会

分析・考察

ゴミのリサイクル率は、全体を通して目標値を達成することができず、特に令和4年度は近年では最も低い18.0%となった。



項目の見直しについて

特になし

令和9年度目標値(案)

第5期高知県廃棄物処理計画の一般廃棄物のリサイクル率の目標値を参考に、目標値を30%に変更する。

(第5期高知県産業廃棄物処理計画のリサイクル率の目標値は25%)

【52】生ゴミのたい肥化への取組状況（コンポスト容器等の普及率）

項目内容

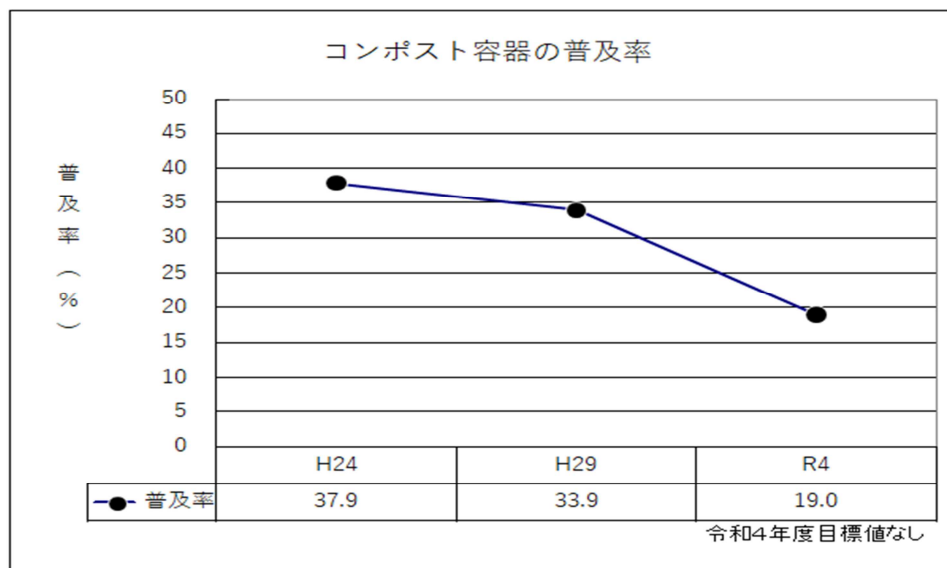
生ゴミのたい肥化への取り組み状況（コンポスト容器等の普及率）

調査方法

平成 24 年度、平成 29 年度、令和 4 年度、に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（平成 19 年度から 5 年に 1 回の頻度）

分析・考察

生ゴミのたい肥化への取り組み率（コンポスト容器等の普及率）は全体的に減少傾向にあり、平成 24 年度から平成 29 年度にかけて 4 % の減少、平成 29 年度から令和 4 年度にかけて 14.9 % の減少となり普及率は 19.0 % となった。



項目の見直しについて

特になし

令和 9 年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。

【53】レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組状況

項目内容

流域市町内でレジ袋の無料配布を行っていない店舗数

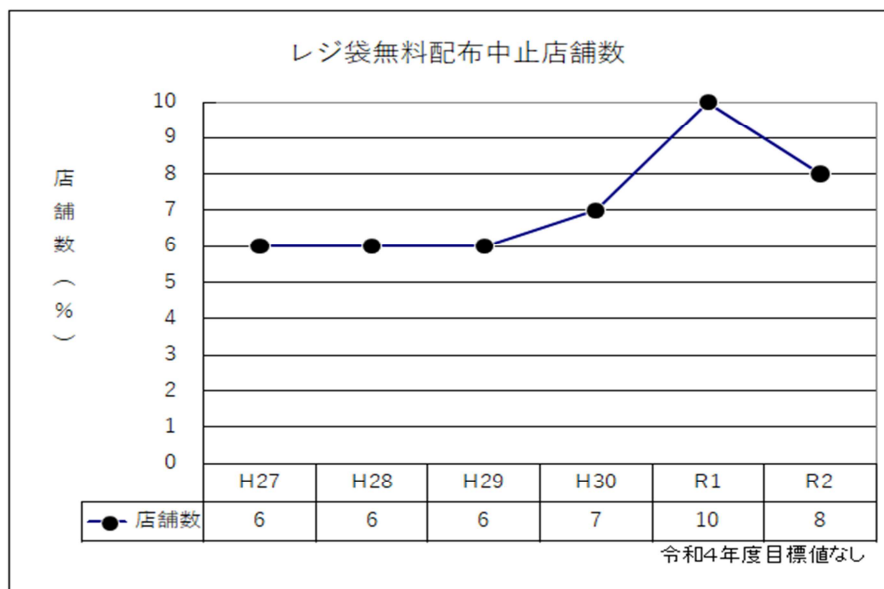
調査方法

流域市町に照会

分析・考察

レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取り組み店舗数は、平成 27 年度から平成 29 年度にかけて横ばい状態だったが、平成 30 年度に 1 件増加、令和元年度に 3 件増加し、その後令和 2 年度に 2 件減少して 8 件となった。

令和 2 年 7 月 1 日からレジ袋有料化が義務化されたため、令和 3 年度以降のデータは掲載していない。



項目の見直しについて

令和 2 年 7 月 1 日からレジ袋有料化が義務化されたため、項目を廃止する。

【54】新エネルギーに関する自家発電設備の設置率

項目内容

個人用住宅における自家発電機設備の設置率（風力、太陽光、廃棄物発電等）

調査方法

令和４年度に実施した流域住民 1,000 人を対象としたアンケート形式による調査（平成 19 年度から 5 年に 1 回の頻度）

分析・考察

当項目についてアンケート調査を実施したのが令和４年度からのため、今後も継続して情報を収集していく。

なお、令和４年度の設置率は 19.7%だった。

項目の見直しについて

特になし

令和９年度目標値（案）

現行どおり、目標数値を定めず数値の把握を行う。